

# 人権学習のための参加体験型 学習プログラム集

わたしも大切たい  
あなたも大切たい



平成24年3月

# ● 目 次 ●

## ● 人権が尊重される地域コミュニティづくりのために

\*\*\*人権学習における参加体験型学習とは\*\*\*

1	この冊子で使われている人権学習における参加体験型学習用語の説明	1
2	人権学習における参加体験型学習の様々な手法	2
3	人権学習における参加体験型学習の利点と留意点	4
4	人権学習における参加体験型学習の企画からふりかえりまで	4
5	この冊子の「学習プログラム」の利用について	6

## ● 人権意識を支える4つのキーワード 7

### ● 人権学習プログラム等

1	「考えよう、わたしの子育て」(子どもの人権)	8
	★「共通ふりかえりシート」	13
2	「多文化共生社会をめざして」(外国籍県民の人権)	14
3	「住みやすいまちづくりのために」(人権全般)	24
	★アイスブレーキング集・Part 1	
	・「わたしのプロフィール」	27
	・「同じもの探し」	27
4	「バリアフリー社会をめざそう」(障害者の人権)	30
5	「窓口対応における人権」(人権全般)	34
	★アイスブレーキング集・Part 2	
	・「いいところみつけ」	39
	・「あわせてポン」	39
	・「ピン・ポン・パン」	40
	・「いっしょを見つけよう」	41
	・「みんなの1円玉」	41
6	「それぞれの立場で考えよう～家庭・地域・学校での男女共同参画～」(女性の人権)	42
7	「画面の向こうに相手がいる」(インターネットによる人権侵害)	46
	★人権教育ビデオ・DVDの活用の仕方	51
8	「学校・家庭・地域の連携」(人権全般)	54
9	「セクハラ・パワハラ」(女性の人権・人権全般)	58

### ● 単独アクティビティ集

1	「車椅子体験」	61
2	「1歩前へ進め」	62
3	「みんなてうハウハ」	65

## ● 資料 かながわ人権施策推進指針(概要版より抜粋) 68

[表紙は、平成23年度神奈川県人権啓発ポスターを使用しています]

## 人権が尊重される地域コミュニティづくりのために

本書「人権学習のための参加体験型学習プログラム集」は、生涯学習・社会教育の担当者や職場、学校、地域等の方が人権にかかわる研修を行う際に活用していただくために作成しました。

近年注目されている「参加体験型学習」の手法を使い、内容・テーマは公民館やPTA、ボランティア等に携わる様々な方を対象としたものになっています。

詳細な学習プログラムと併せて、そのまま複写して使用できるようワークシートや資料を掲載して、活用しやすいようにしました。

ぜひこのプログラム集を参考に、地域の実態や対象者に合わせて工夫しながら人権学習を行っていただき、人権が尊重される地域コミュニティづくりを進めていただければ幸いです。

### \*\*\* 人権学習における参加体験型学習とは \*\*\*

#### 「気づきから築きへ」

人権学習における参加体験型学習は、一人ひとりが主体的に活動しながら学習を展開していく方法です。人権問題について気づき、参加者同士でともに考え、問題解決に向けての意欲や行動力を高めることにより、人権が尊重される社会を築くことをねらいとしています。

#### 1 この冊子で使われている人権学習における参加体験型学習用語の説明

##### (1) ワークショップ

元来「職場」「作業場」「工房」等を意味します。指導・被指導の関係で学ぶのではなく、他の参加者と意見交換や共同作業を行いながら「気づき」「学び合い」、最後に自らの「ふりかえり」をするという、参加体験型学習の形態を用いた研修会等のことをいいます。

##### (2) ワークシート

ワークショップ・参加体験型学習で学習内容に合わせて、運営者があらかじめ準備した質問項目や作業内容等が書かれた用紙のことをいいます。この用紙に学習内容を書き入れられるようにすることで、参加者が効率的に学習を進めることができます。

### (3) ファシリテーター

参加体験型学習を進行する人のことをファシリテーターといいます。「ファシリテーター」には「促進する、活性化させる」という意味があり、参加体験型学習を文字どおり「促進する、活性化させる」のがファシリテーターの役割です。具体的には、話し合いの素材になるものを用意して、話し合いの整理をする議長役だけでなく、参加者一人ひとりが深く考えられるように話題の転換や質問などを織り交ぜていき、参加者とともに学習していく立場の人をいいます。

### (4) アイスブレイキング

参加者の緊張をときほぐし、自由に話せる安心感をつくり出す活動のことをいいます。声を出さないコミュニケーションによるグループづくりや、自己紹介ゲーム、コミュニケーションの活性化をねらう伝言ゲーム等があり、導入の段階で有効です。

### (5) アクティビティ

学習プログラムを構成する重要なもので、学習のねらいを達成するための主となる学習活動のことをいいます。

### (6) ふりかえり

参加者が参加体験型学習をとおして気づき、考えたことを確認する活動のことをいいます。他の参加者と発表し合うことで、学習が独りよがりのものでなく、より深い思考へとつながります。

### (7) 学習プログラム

学習全体としてのねらいを達成するために、アイスブレイキング、アクティビティ、ふりかえりなどを効果的に組み合わせつつくり出す学習全体の流れのことをいいます。

## 2 人権学習における参加体験型学習の様々な手法

～組み合わせる展開することができます～

### (1) ビデオフォーラム

「ビデオ視聴」と「話し合い」を組み合わせた学習方法です。生活背景の違う参加者に共通の話題を提供することで、一人ひとりのもつ生活課題・問題の絞り込みができ、深みのある話し合いができます。参加者の心情を大きく揺さぶり、強い情緒的な刺激を与え、学習への動機づけや学習の展開を方向づけることができます。

## (2) ロールプレイ

学習の内容に応じた場面を設定し、その中で参加者が話し手、聞き手、観察者等の役割を相互に分担し合い、演技をすることで、学習目的に迫る方法です。現実の問題を模擬的に演じることにより、自分の心を感情のままに自由に表現することができ、人間関係の改善などに迫ることができます。

## (3) ブレインストーミング

自由な発想で討議し、創造的に問題解決をめざす方法です。特定の目標の実現のために、アイデアを出し合ったり、様々な考え方を整理したりしながら、グループとしての行動方針を設定することができます。

## (4) 疑似体験（シミュレーション）

模擬体験・疑似体験のことです。障害がある人の状況を体験するアイマスク・車椅子体験等が代表的ですが、仮想の国家間での貿易ゲームや、仮の権力関係を設定して多数者と少数者の関係について体験するなど、様々な疑似体験をとおして新しい発見と相手の立場に立った考え方に迫ることができます。

## (5) フィールドワーク

実際に自らが現地に赴き、見たり、聞いたり、ふれたり、調べたりする活動方法です。地域の実情や歴史的経緯等にふれる調査で、見過ごしてしまっているようなテーマに着目して地域の課題を発見していくことができます。

## (6) ランキング

様々なテーマについて 10 個前後の権利や具体的な項目等をカードに記入し、参加者が自分にとって重要と考える順序にダイヤモンド型等にランキング（順位づけ）していく方法です。その根拠等を整理し、その結果について参加者相互で意見交換・討議をすることで主題に迫ることができます。

## (7) カードを用いた分類法

参加者の意見をカードに書き、そのカード全部を見ながら分類や討議をします。参加者のすべての意見を集約することができ、またカードの匿名性から、自由な発想や本音の意見を引き出すことができます。

### 3 人権学習における参加体験型学習の利点と留意点

参加体験型学習の利点と留意点を理解した上で、目的や対象者に合わせて展開しましょう。

#### 【利点】

- (1) 様々な手法を活用して参加者が主体的に学習することにより、人権に対する理解を深めることができます。
- (2) ゲーム性のあるアイスブレイキングで、安心して参加できる雰囲気をつくり出せます。また、日常生活にあり得そうなことを問題提起するようなアクティビティで、人権を身近な問題としてとらえることができます。
- (3) 参加者同士が話し合うことで、様々な考えがあることが認識でき、人権課題の解決に向けて、意欲や行動力を高めることができます。

#### 【留意点】

- (1) ファシリテーターは、ねらいを達成できるよう、「予想される参加者からの回答や質問」に対する事前の準備が必要です。
- (2) 体験による発見が独りよがりの理解にならないよう、話し合いの時間が必要です。また、学習内容がその場限りにならないよう、学んだことをふりかえる時間を設ける必要もあります。

### 4 人権学習における参加体験型学習の企画からふりかえりまで

#### (1) 学習のねらいを設定する

学習プログラムを通じて参加者とともに作り出したいねらいを設定することが必要です。どのような知識・理解や態度・技能を身につけていくのか明確にします。そして、学習の最初に参加者とねらいを共有してから学習プログラムを進めましょう。

#### (2) 参加者の様子や人数等を知る

参加者がどのような人なのか知っておくことが大切です。年齢、性別、参加体験型学習の経験がどの程度あるのかなどを考慮するとよいでしょう。また、参加者の人数により、ペアやグループをどのように編成するかかわってきます。参加者が多い場合は、学習の深まりを考えて適宜ファシリテーター以外にも学習プログラムの運営を支援してくれる人を配置するとよいでしょう。

### (3) 学習プログラムを考える

アイスブレイキング、アクティビティ、ふりかえりをどのように行うのか、学習のねらいと参加者の経験などに合わせて考えます。参加者同士で交流ができ、十分な意見交換ができるような時間配分やふりかえりてどのようなことを共有するのか考えることが大切です。

本冊子の学習プログラムはアイスブレイキングやアクティビティを入れかえても使用できるようになっています。

ワークシートはコピーしてそのまま使えるようにしてありますが、アクティビティで扱われる登場人物や場面を、参加者にあわせて適切な設定にかえて利用してもよいでしょう。

### (4) 会場の用意と必要なものを準備する

学習プログラムに合わせて会場の配置を工夫しましょう。動きのあるプログラムの場合は十分な広さを確保できるようにしましょう。必要なものはアクティビティによってかわりますが、あらかじめ活動するグループより多めに準備しておきましょう。

### (5) 実施する

学習の流れ	留意点
<p>1 はじめに</p>	<p>一人ひとりが安心して学習できるように次の内容を確認してから学習を進めましょう。</p> <div style="border: 2px solid blue; padding: 10px;"> <p><b>[ 参加体験型学習の約束 ]</b></p> <p>①自分と違う意見であっても、お互いの意見を尊重して意見交換を行いましょう。</p> <p>②学習の場で出てきた個人的な経験や考えについては、この場限りとして、安心して話してください。同様に、学習の場で話された個人的な内容は、他の場では話さないよう心の中にしまっておいてください。</p> <p>③様々な事情で内容によって意見を出したくないという人がいた場合は、参加しないという選択肢もあるので尊重してください。</p> </div>
<p>2 実施中に</p> <p>①過程を大切に</p> <p>②答えは1つではない</p>	<p>～ファシリテーターとして心がけたいこと～</p> <p>結論を出すことが目的ではありません。話し合った過程を大切に、様々な考え方があることを参加者同士が理解し合えることが大切です。</p> <p>「これが絶対正しい」という答えがあるわけではありません。様々な考え方を認めましょう。また、考え方を1つにまとめることが目的ではありません。</p>

学習の流れ	留意点
<p>③ 誤った考え方に対しては正しい情報を</p> <p>④ ふだんの生活の中に生かす</p>	<p>偏見や差別を助長する発言が肯定的になりそうなときは、正しい情報を提供して、人権課題の解決に結びつくように理解を深めることが必要です。</p> <p>ふだんの生活の中で、学習で体験したような事柄に出会ったとき、この学習で学んだことを生かすことが大切です。参加者が理解したことを友だちや仲間を広め実践していくことで豊かな社会が実現できるのだということを確認しましょう。</p>
<p>3 運営者のふりかえり</p>	<p>参加者のふりかえりを参考に、当初のねらいに迫ることができたかを考察し、次の学習プログラムづくりに生かしましょう。</p>

## 5 この冊子の「学習プログラム」の利用について

「学習の流れ」の欄は、参加者の活動について示しています。

「時間」の欄は、導入・展開・まとめとして3つに分け、およその時間配分を示しています。

□の中には、各活動の後のまとめとして、ファシリテーターにおさえてほしいことを示しています。

「●参考」は、参考となるホームページや文献が掲載されています。  
なお、ホームページについては作成時のもので、変更されている場合があります。

**1 「考えよう、わたしの子育て」(子どもの人権)**

実施する場  
①対象者 PTA等保護者  
②所要時間 90分

活動のねらい(ポイント)

①ものごとには様々な見方があり、一つのものの見方にとらわれることなく、幅広い視野でものごとを見ていくことの大切さを見つける。  
②子どもの人権尊重や自尊感の育成を意図して子育てを行っているかをふりかえり、自分の子育てを見直さすきっかけとする。

準備するもの  
付箋、ワークシート1・2、資料、共通ふりかえりシート、名刺大の紙

時間	学習の流れ(活動・内容)	留意事項	備考(資料等)
導入 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習の確認(5分)</li> <li>・研修会のねらい</li> <li>・目標</li> <li>・参加体験型学習における約束</li> <li>●アイスブレイキング(15分)</li> <li>「名刺交換」</li> </ul> <p>①表に自分の呼ばれたい愛称を書き、裏に自分の所属、氏名を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[参加体験型学習の約束]の内容を伝える。</li> <li>⇒P.3の2-(5)</li> <li>・名刺大の紙を各自5枚配付する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名刺大の紙</li> </ul>
展開 60分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アクティビティ1(30分)</li> <li>「大丈夫？わたしの子育て」</li> <li>①提示したもの以外で、自分が子育てで大切にしているポイント</li> </ul> <p style="border: 1px solid blue; padding: 2px;">・子どもを一面的にとらえずに見方をかえ、子どものよいところを見つけることは、大人の変革につながり、それによって子どもたちが変わったり、家庭が変わったりすることにつながる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前の人と同じ内容でも構わないが、なるべく言い回しを変えるようしてもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート1 ⇒P.10</li> </ul>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まとめ(5分)</li> <li>・ファシリテーターの話を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「児童の権利に関する条約」と「子どもの権利条約」は同一のものである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 ⇒P.12</li> </ul>

＜参考資料＞「参加体験型人権学習ワークシート集」神奈川県教育委員会(平成15年発行)

学習を深めるために 人権啓発DVD「0000」の視聴を入れて実施することも考えられる。

●参考  
子育てに関する情報が掲載されているホームページ URL: <http://0000.jp>

タイトルの後の( )内は、取り扱う主な人権課題を示しています。

「留意事項」の欄は、ファシリテーターの活動について示しています。

「備考」の欄は、準備するものなどを示しています。

＜参考資料＞は、学習プログラム作成に参考とした資料を示しています。

「学習を深めるために」は、プログラムに加えられるような他の活動等について示しています。

## 人権意識を支える4つのキーワード

### 1 自尊感情（セルフエスティーム）

自尊感情とは、「いろいろ欠点もあるけれど、自分が好き。」という気持ちのことです。自分のことを大切に思うことが、他の人のことを大切にできる気持ちにつながります。

### 2 想像力・共感的理解力

想像力・共感的理解力とは、他の人の立場に立って、その人に必要なことやその人の考えや気持ちなどがわかるような力です。想像力・共感的理解力が、相手に対する思いやりにつながります。

### 3 相手を理解するためのコミュニケーション能力

コミュニケーション能力とは、相手への思いやりの気持ちを忘れずに、自分の気持ちや意見をはっきりと相手に伝えるとともに、相手の気持ちや意見をきちんと受けとめる力です。コミュニケーションには、話す聞くだけでなく、態度や身振り、顔の表情なども含まれます。

また、コミュニケーションには、「ちゃんと聞いていますよ。なるほど、そう感じているんですね。」という受容的な姿勢も大切です。

### 4 非攻撃的自己主張（アサーティブネス）

非攻撃的自己主張とは、相手の気持ちを傷つけずに自分の思いを相手に伝える方法です。問題が起きたとき、相手を攻撃するような口調を使うと、攻撃された方は反発したり、黙ってしまったりします。それよりも、「そんなことを言われると私は悲しい。」など自分の内面の気持ちを素直に伝えてみましょう。相手にとってもその気持ちを受け入れやすくなり、問題解決に向けて話を進めやすくなります。

# 1

## 「考えよう、わたしの子育て」（子どもの人権）

### 実践する場面

①対象者 PTA会員等（小・中・高校生をもつ保護者等）

②所要時間 90分

### 活動のねらい（ポイント）

①ものごとには様々な見方があり、一つのものの見方にとらわれることなく、幅広い視野でものごとを見ていくことの大切さに気づく。

②子どもの人権を尊重することや自尊感情を育むことを意識して子育てを行っているかをふりかえり、自分の子育てを見直すきっかけとする。

### 準備するもの

付箋、ワークシート1・2、資料、共通ふりかえりシート、名刺大の紙

### 進め方（展開例）

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	備考（資料等）
20分	<p>◆学習の確認（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会のねらい</li> <li>・日程</li> <li>・参加体験型学習における約束</li> </ul> <p>◆アイスブレイキング（15分）</p> <p>「名刺交換」</p> <p>①表に自分の呼ばれたい愛称を書き、裏に自分の所属、氏名を書く。</p> <p>②会場内を歩き回り、他の参加者とじゃんけんをして、勝ったら自己紹介をして負けた相手に名刺を渡す。手持ちの名刺がなくなった人から一列に並ぶ。</p> <p>③先頭の人と最後の人等の感想を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[参加体験型学習の約束]の内容を伝える。 ⇒ P.5 の 4- (5)</li> <li>・名刺大の紙を1人5枚ずつ配付する。</li> <li>・発表後、感想を生かしながらまとめをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名刺大の紙</li> </ul>
<p>・じゃんけんには勝ってうれしいが手元に名刺は残らず少し寂しく思う人、じゃんけんには負けて悔しいがたくさんの名刺が手元に残ってうれしく思う人など、物事には二面性があることに気づく。</p> <p>・一面的なものの見方ではなく、多様なものの見方を身につけることが大切である。</p>			
	<p>◆アクティビティ1（30分）</p> <p>「大丈夫？わたしの子育て」</p> <p>①提示したもの以外で、自分が子育てで大切にしているポイントを1つ自由に書く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート1 ⇒ P.10</li> </ul>

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	備考（資料等）
<p>展開</p> <p>65分</p>	<p>② 9つの大切にしているポイントのキーワードを付箋に書き、座標に当てはめる。</p> <p>③ それぞれの座標をもとに、グループごとに意見を交換する。</p> <p>④ グループで出た意見を全体に発表し、共有する。</p>	<p>・ キーワードを書いた付箋を座標に当てはめるときの例を示す。</p>	<p>・ 付箋</p>
	<p>・ 自分が子育てにおいて大切にしているポイントが座標のどの位置に当てはまるかを確認することで、子育てについて考えるきっかけとする。</p> <p>・ 子育ての中で、子どもの人権を尊重し自尊感情を育む視点を持つことが大切である。</p>		
	<p>◆ アクティビティ2（30分）</p> <p>「逆転の発想で～子どものよいところを見つけよう～」</p> <p>① 4人グループになり、自分の子どもの困っているところなどをワークシートに記入する。</p> <p>② 左回りでそれぞれの項目に1つずつ、逆転の発想でよい見方を書いてもらう。</p> <p>③ ワークシートをもとにグループで話し合う。</p> <p>④ グループで出た意見を全体に発表し、共有する。</p>	<p>・ 前の人と同じ内容でも構わないが、なるべく言い回しをかえるようしてもらう。</p> <p>・ 人に書いてもらって気づいたことや自分ではこういう発想は難しいと思う理由などについて話し合うよう助言する。</p>	<p>・ ワークシート2 ⇒ P.11</p>
<p>・ 子どもを一面的にとらえずに見方を変え、子どものよいところに気づくことは、大人の意識改革につながり、それによって子どもたちがかわったり、家庭がかわったりすることにつながる。</p>			
	<p>◆ ふりかえり（5分）</p> <p>・ アクティビティ1、2をとおして考えたこと、気づいたことを中心にふりかえる。</p>	<p>・ 話し合うだけでなく、「共通ふりかえりシート」を活用してもよい。</p>	<p>・ 共通ふりかえりシート ⇒ P.13</p>
<p>まとめ</p> <p>5分</p>	<p>◆ まとめ（5分）</p> <p>・ ファシリテーターの話を聞く。</p>	<p>・ 特に「児童の権利に関する条約」の第3、7、12、18、29条について紹介する。</p> <p>・ 「児童の権利に関する条約」と「子どもの権利条約」は同一のものである。</p>	<p>・ 資料 ⇒ P.12</p>

# 「大丈夫？わたしの子育て」

意識が高い



できている

## 大切にしているポイント

子どもとスキンシップをとる。

子どもに必要な栄養を考え、好き・きらいなく食べさせる。

いけないことは「いけない」とけじめをつけさせる。

自分の子どもと他人の子どもを比較しない。

テレビやゲームの時間を決めて守らせる。

学校の勉強の他に習い事や塾などの勉強もしっかりやらせる。

天気のいい日は外で遊ばせる。

親子でなんでも話し合える関係をつくる。

\*自分で自由に作ってみましょう。

# 逆転の発想で ~子どものよいところを見つけよう~

◇子どもの「ここが気になる」「こういうところで困っている」と思うことを3つあげ、その事柄について見方をかえた表現（逆転の発想）で表してみましょう。

	気になるところ、 困っているところ など	逆転の発想		
		ひとりめ 1人目	ふたりめ 2人目	3人目 3人目
例	・落ち着きがない	・好奇心が旺盛	・元気がいい	・活発
1				
2				
3				

<参考資料「参加体験型人権学習ワークシート集」神奈川県教育委員会（平成15年発行）>

がくしゅう ふか  
学習を深めるために

じどう けんり かん じょうやく ばっすい  
「児童の権利に関する条約」抜粋

だい じょう こ  
第3条 子どもにとってもっともよいことを

子どもにかんけいのあることを行うときには、子どもにもっともよいことは何なにかを第一だいいちに考えなければなりません。

だい じょう なまえ こくせき けんり  
第7条 名前・国籍をもつ権利

子どもは、生まれたらすぐに登録（出生届など）されなければなりません。子どもは、名前なまえや国籍こくせきをもち、親おやしを知り、親おやしに育ててもらそだう権利けんりをもっています。

だい じょう いけん あらわ けんり  
第12条 意見を表す権利

子どもは、自分じぶんにかんけいのあることについて自由じゆうに自分じぶんの意見いけんを表あらわす権利けんりをもっています。その意見いけんは、子どもこの発達はったつにおうじて、じゅうぶん考慮こうりよされなければなりません。

だい じょう こ よういく おや せきにん  
第18条 子どもの養育はまず親に責任

子どもを育てる責任せきにんは、まずその父母ふぼにあります。国くにはその手助けてだすをします。

だい じょう きょういく もくてき  
第29条 教育の目的

教育きょういくは、子どもが自分じぶんのもっているよいところをど**ん**ど**ん**のばしていくためのものです。教育きょういくによって、子どもが自分じぶんも他の人ほかもみんな同じひとように大切おなにたいせつにされるということや、みんなとなかよくすること、みんなの生いきている地球ちきゅうの自然ぜんの大切たいせつさなどを学まなべるようにしなければなりません。

出典「子どもの権利条約」日本ユニセフ協会抄訳

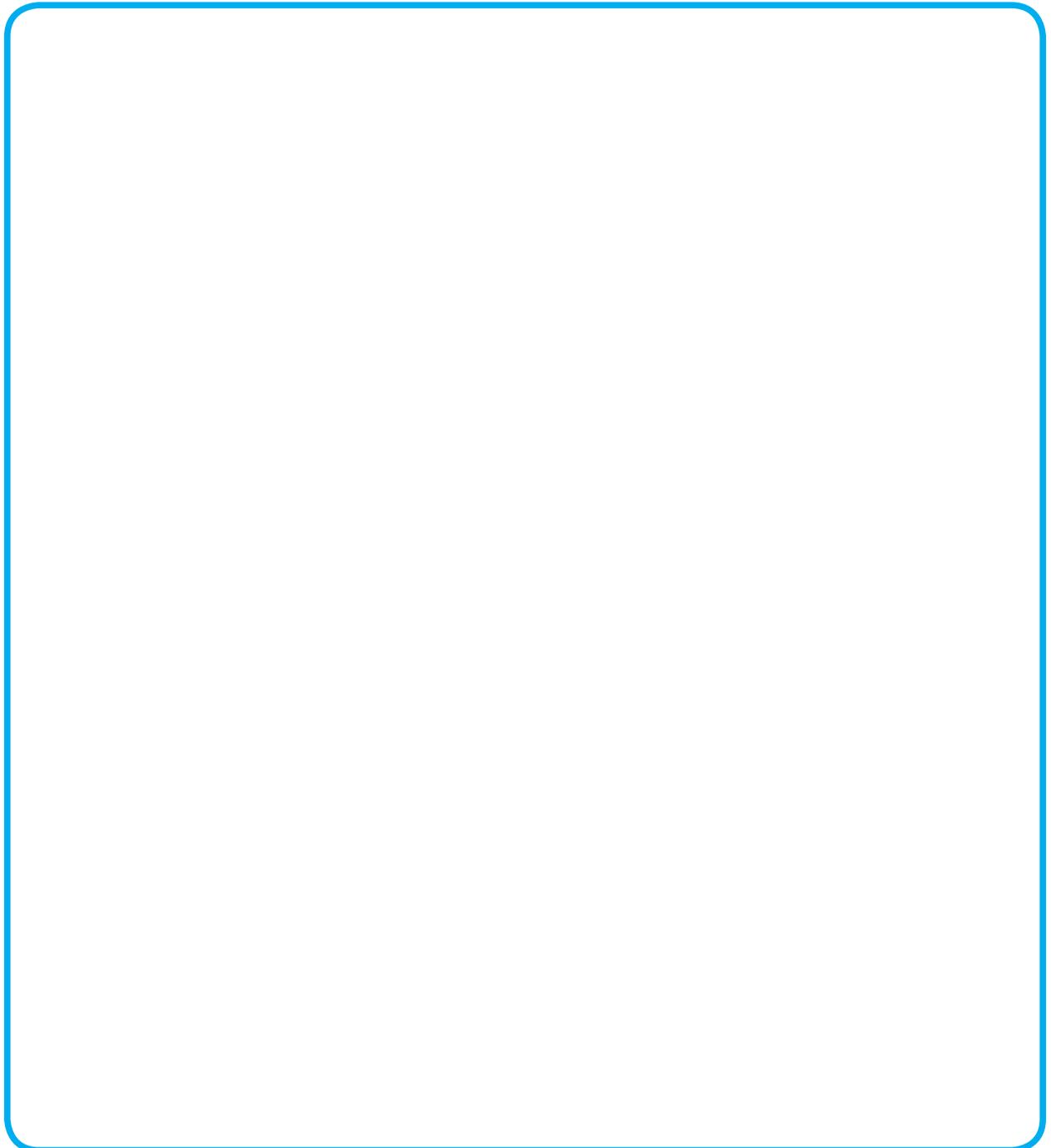
URL <http://www.unicef.or.jp/kodomo/nani/kenri/syo1-8.htm>

## ふりかえりシート

- ◆ アイスブレイキングをとおして、感じたり、考えたりしたことについて書きましょう。



- ◆ アクティビティをとおして、感じたり、考えたりしたことについて書きましょう。



# 2

## 「多文化共生社会をめざして」(外国籍県民の人権)

### 実践する場面

- ①対象者 人権教育担当職員、行政職員等
- ②所要時間 90分

### 活動のねらい(ポイント)

- ①外国籍県民の人権について理解を深め、よりよい社会の実現について考える。
- ②緊急災害時における多文化共生について気づきや学びを広げる。

### 準備するもの

- 資料1・2、おはじき、ワークシート1～6、
- 「神奈川県内の外国人登録者確認クイズ」等のデータ資料(適宜作成したもの)

### 進め方(展開例)

時間	学習の流れ(活動・内容)	留意事項	備考(資料等)
導入 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学習の確認(5分)</li> <li>・研修会のねらい</li> <li>・日程</li> <li>・参加体験型学習における約束</li> <li>◆アイスブレイキング(15分)</li> <li>「仲間さがし」</li> <li>①絵シールを背中に貼ってもらう。</li> <li>②声を出さずに同じ絵同士で集まり、グループをつくる。</li> <li>③互いに感想を話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[参加体験型学習の約束]の内容を伝える。 ⇒P.5の4-(5)</li> <li>・グループは原則4人とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 ⇒P.16</li> </ul>
<p>・コミュニケーションを図る困難さや喜びを感じるとともに、コミュニケーションには、話す聞くだけでなく、態度や身振り、顔の表情なども含まれることに気づく。</p>			
展開 65分	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆アクティビティ1(25分)</li> <li>「みんなでじゃんけんゲーム」</li> <li>①グループ単位でじゃんけんゲームを行うことを確認する。</li> <li>②配られたルールカードを黙読する。制限時間は1分。</li> <li>③グループ単位でゲームを開始する。</li> <li>④グループごとにふりかえりをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれのグループに、別の国のじゃんけんルールカードを持った参加者がいるように配慮する。</li> <li>・日本のじゃんけんのかけ声「じゃんけんぽん」で、タイミングを合わせるようにする。</li> <li>・かけ声以外は、声を出さないことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料2 ⇒P.17</li> <li>・おはじき</li> </ul>
<p>・同じゲームでも、国によってルールが異なることに気づく。 ・異なる文化を理解しようと努力することが多文化共生社会の実現につながる。</p>			

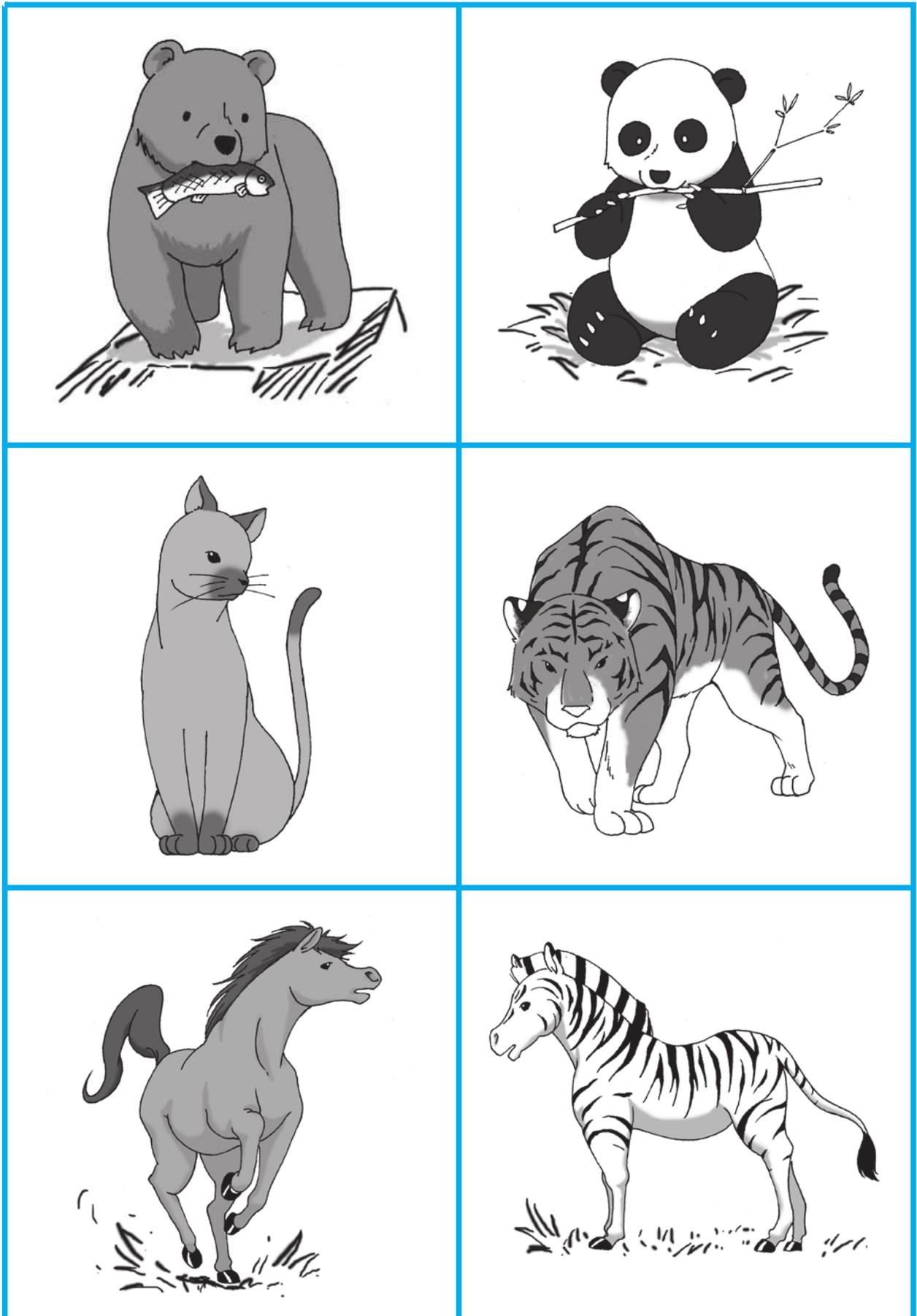
時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	備考（資料等）
	<p>◆アクティビティ2（10分） 「神奈川県内の外国人登録者確認クイズ」 ①個人で考える。 ②グループ内で意見を交換する。 ③提示されたデータを確認する。</p> <p>◆アクティビティ3（25分） 「問診票に記入しよう」 ①ワークシート2「あなたの状況」を読み、理解する。 ②配付された問診票（外国語版）について意見を交換しながら記入する。 ③問診票（日本語版）の内容を確認する。 ④2種類の問診票を比較し、グループ内で意見を交換する。 ⑤グループで出た意見を全体に発表し、共有する。</p>	<p>クイズ例 ①神奈川県の外国人登録者数は？ ②上の①の数は都道府県別では何位？ ③外国人登録者数の上位5カ国は？ ④あなたの市町村には何人くらいの外国人が暮らしているか？ ⑤あなたの市町村で登録者数が多い国は？</p> <p>・データは県民局くらし文化部国際課の最新版のものを使用する。</p> <p>・グループ単位で1種類の問診票（外国語版）を配付する。 ・個人情報については記入の必要がないことを伝える。 ・記入後、問診票（日本語版）を配付する。 ・特に言葉の理解が間違っていたときの危機感や自分たちの地域の状況等について意見を交換するよう指示する。</p>	<p>・ワークシート1 ⇒ P.18</p> <p>・データ資料 （適宜作成したもの）</p> <p>・ワークシート2～6 ⇒ P.19～23</p> <p>問診票に記入しよう 中国語版 韓国・朝鮮語版 ポルトガル語版 日本語版</p>
	<p>◆ふりかえり（5分） ・アクティビティ1～3をとおして考えたこと、気づいたことを中心にふりかえる。</p>		
まとめ 5分	<p>◆まとめ（5分） ・ファシリテーターの話を聞く。</p> <p>・それぞれの地域で暮らす外国籍県民の不安や不便さに気づき、よりよい環境を整備していくことが大切である。</p>	<p>・活動のねらい（ポイント）をおさえる。</p>	

参考資料 「外国籍県民への情報提供に関する基本方針」 県民局くらし文化部国際課（平成18年）  
「外国籍県民への情報提供に関する実施要領」 //  
「外国籍県民への緊急情報の提供に関する実施要領」 //

●参考

- ・県民局くらし文化部国際課 URL <http://www.pref.kanagawa.jp/div/0215/>
- ・法務省入国管理局 URL <http://www.immi-moj.go.jp/toukei/index.html>

なかま え れい  
「仲間さがし」絵シール (例)



※必要数複写して切り離し、裏面に両面テープを貼って使用する。

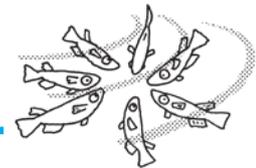
## アクティビティ 1 「みんなでじゃんけんゲーム」

### 【世界のじゃんけんルール書】 インドネシアのじゃんけん

- (1) 3人以上で行います。
- (2) 「ホム、ピン、パ」のかけ声で、手のひらを上か下に向けて出します。
- (3) 手のひらの上下の向きが多い方の勝ちとなります。
- (4) 今回は「じゃんけんぽん」と日本のかけ声でやりましょう。

- 《判定》
- ①グーやチョキはありません。手のひらの上・下だけを見ます。
  - ②自分が出したのが多い方ならば景品（おはじき）を1つとります。

★一番多くのおはじきを手に入れた人が勝ちです。

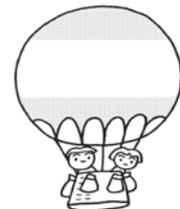


### 【世界のじゃんけんルール書】 旧ユーゴスラビア地域のじゃんけん

- (1) 3人以上で行います。
- (2) グーにした手をぐるぐる回しながら「Zimi、Zami、Zum！」のかけ声で、グーかパーを出す。
- (3) グーかパーを単独に出した人が勝ちとなります。  
例えば、5人でやる場合は、4人がパーを出し、1人がグーなら、グーの勝ちとなります。
- (4) 今回は「じゃんけんぽん」と日本のかけ声でやりましょう。

- 《判定》
- ①チョキはありません。グーかパーを出します。
  - ②グー単独、または、パー単独であった時、景品（おはじき）を1つとります。

★一番多くのおはじきを手に入れた人が勝ちです。



かな がわけんない がいこくじんとうろくしゃかくにん  
神奈川県内の外国人登録者確認クイズ

① <sup>かな がわけん</sup> 神奈川県の外国人登録者数は？ <sup>にん</sup> 人

\_\_\_\_\_

② <sup>うえ</sup> 上の①の数 <sup>かず</sup> は <sup>とどう ふ けんべつ</sup> 都道府県別 <sup>なんい</sup> では何位？ <sup>い</sup> 位

\_\_\_\_\_

③ <sup>がいこくじんとうろくしゃすう</sup> 外国人登録者数の <sup>じょうい</sup> 上位 <sup>かこく</sup> 5カ国は？

<sup>い</sup> 1位

\_\_\_\_\_

<sup>い</sup> 2位

\_\_\_\_\_

<sup>い</sup> 3位

\_\_\_\_\_

<sup>い</sup> 4位

\_\_\_\_\_

<sup>い</sup> 5位

\_\_\_\_\_

④ <sup>しちょうそん</sup> あなたの市町村には何人 <sup>なんにん</sup> ぐらいの <sup>がいこくじん</sup> 外国人 <sup>く</sup> が暮らしているか？ <sup>にん</sup> 人

\_\_\_\_\_

⑤ <sup>しちょうそん</sup> あなたの市町村で <sup>とうろくしゃすう</sup> 登録者数 <sup>おお</sup> が <sup>くに</sup> 多い国は？

\_\_\_\_\_

（できるだけ最新のデータを使用するようにしましょう。⇒ P.15 のホームページ参照）

答え

① 神奈川県の外国人登録者数は？ 171,439 人

② 上の①の数は都道府県別では何位？ 4 位

③ 外国人登録者数の上位5カ国は？ 1位 中国 2位 韓国・朝鮮  
3位 フィリピン 4位 ブラジル 5位 ペルー

④⑤は各市町村の数を「県民局暮らし文化部国際課ホームページ」⇒ P.15 で確認して記載してください。

「答え」のデータは「県民局暮らし文化部国際課」、「法務省入国管理局」2010年の統計によります。

アクティビティ 3 <sup>もんしんひょう きにゅう</sup>「問診票に記入しよう」ワークシート



1 <sup>つぎ</sup> 次の「<sup>じょうきょう</sup>あなたの状況」<sup>かくにん</sup>を確認しましょう。

<sup>じょうきょう</sup>「あなたの状況」

あなたは外国<sup>がいこく</sup>にやってきたばかりで、その国<sup>くに</sup>の文字<sup>もじ</sup>が読めません。ところが、外国<sup>がいこく</sup>に来てまもなく、39度5分<sup>ど ぶん</sup>の高熱<sup>こうねつ</sup>が3日<sup>か じつ</sup>も続き、下痢<sup>げり</sup>も止まりません。寒気<sup>さむけ</sup>もするし、咳<sup>せき</sup>もひどいです。病院<sup>びょういん</sup>の内科<sup>ないか</sup>で診察<sup>しんさつ</sup>してもらおうと総合病院<sup>そうごうびょういん</sup>に行くと、看護師<sup>かんごし</sup>さんから問診票<sup>もんしんひょう</sup>にあなたの健康状態<sup>けんこうじょうたい</sup>を書くようにいわれました。あなたはひどいアレルギー<sup>かこうせいぶっしつ</sup>なので、抗生物質<sup>ちゅうしゃ</sup>の注射<sup>くすり</sup>や薬<sup>さ</sup>を避けないと、逆<sup>ぎやく</sup>に副作用<sup>ふくさよう</sup>で命<sup>いのち</sup>が危ない可能性<sup>あぶ</sup>もあります。あなたはその他<sup>ほか</sup>、ぜんそく<sup>しんぞうびょう</sup>・心臓病<sup>しんぞうびょう</sup>の持病<sup>じびょう</sup>もありますので、治療<sup>ちりょうじょう</sup>上さまざまな配慮<sup>はいりょ</sup>が必要<sup>ひつよう</sup>なため、医者<sup>いしゃ</sup>にこのことを知<sup>し</sup>ってもらわなければなりません。

2 <sup>じょうき</sup> 上記<sup>じょうきょう</sup>の状況をふまえて、問診票<sup>もんしんひょう</sup>（外国語版<sup>がいこくごばん</sup>）に記入<sup>きにゅう</sup>しましょう。

3 <sup>じょうき</sup> 上記<sup>じょうきょう</sup>の状況をふまえて、問診票<sup>もんしんひょう</sup>（日本語版<sup>にほんごばん</sup>）に記入<sup>きにゅう</sup>しましょう。

4 <sup>もんしんひょう きにゅう</sup> 2つの問診票に記入して、気づいたことをまとめてみましょう。

## 問診票

① 请在\_\_\_\_\_上填入相应的内容。

姓名 \_\_\_\_\_  
 性别 男 · 女 年龄 \_\_\_\_\_  
 出生年月日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日  
 现住址 \_\_\_\_\_  
 电话 \_\_\_\_\_

② 请问您今天挂号哪一科？

( ) 内科 ( ) 眼科  
 ( ) 外科 ( ) 精神科  
 ( ) 整形外科 ( ) 牙科  
 ( ) 泌尿科  
 ( ) 小儿科  
 ( ) 妇产科

③ 请再与您最贴切的情况前划✓。

( ) 痢疾 ( ) 眩晕  
 ( ) 便秘 ( ) 寒气  
 ( ) 恶心 ( ) 发烧  
 ( ) 怀孕 ( ) 咳嗽

④ 请在下面的项目中于您最贴切的情况前划✓。

◎ 问一下关于您自身的问题。

- 有被诊断过患有哮喘。
- 到现在为止有过药物或食物过敏。
- 有被诊断过血压过高。
- 有被诊断过患有糖尿病。
- 曾经有过抽风或痉挛的状况。
- 曾经昏倒或眩晕过。
- 有被诊断过心脏不好。
- 有患过大病。
- 有输过血。
- 现在正在感冒。
- 最近 1 个月之中有患过
- (a) 麻疹 (b) 水痘 (c) 风疹等 传染病。
- 吸烟 (一天的根数 根)
- 喝酒 (□多 □少)

# 검사표

1 아래의 \_\_\_\_\_에 기입 해 주세요.

이름 \_\_\_\_\_

성명 남 · 여 연령 \_\_\_\_\_

생년월일 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_년 \_\_\_\_\_월 \_\_\_\_\_일

현재주소 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_

전화 \_\_\_\_\_

2 오늘 진료받을 과를 선택해 주세요?

- |          |         |
|----------|---------|
| ( ) 내과   | ( ) 안과  |
| ( ) 외과   | ( ) 정신과 |
| ( ) 성형외과 | ( ) 처과  |
| ( ) 비뇨기과 |         |
| ( ) 소아과  |         |
| ( ) 산부인과 |         |

3 해당하는곳에 ✓를 해주세요.

- |        |         |
|--------|---------|
| ( ) 설사 | ( ) 현기증 |
| ( ) 변비 | ( ) 한기  |
| ( ) 구토 | ( ) 발열  |
| ( ) 임신 | ( ) 결핵  |

4 다음 질문에 해당하는 항목에 ✓를 해주세요.

◎지금의 몸 상태에 대해서 질문을 하겠습니다.

- 천식이라고 진단 받은 적이 있다.
- 지금까지 약이나 음식물 알레르기가 있다.
- 혈압이 높다고 진료 받은 적이 있다.
- 당뇨병이있다고 진료 받은 적이 있다.
- 경련을 일으킨 적이 있다.
- 의식을 잃거나,몽롱한 상태가 된 적이 있다.
- 심장이 약하다고 진단 받은 적이 있다.
- 큰 병을 앓은 적이 있다.
- 수혈을 받은 적이 있다.
- 지금 감기에 걸려있다.
- 최근 한달 동안에,아래의 병에 걸린 적이 있다.  
 (a) 홍역 (b) 수두 (c) 풍진등
- 담배를 핀다 (1일갯수 \_\_\_\_\_ 개)
- 술을 마신다 ( \_\_\_\_\_ □많다 □적다 )

## Uma diagnose perguntando voto de perguntas

1 Por favor, preencha este formulário.

Nome \_\_\_\_\_

Sexo Masc. \_\_\_\_\_ Fem. \_\_\_\_\_ Idade \_\_\_\_\_

Data de Nasc. \_\_\_\_\_ ano \_\_\_\_\_ mes \_\_\_\_\_ dia

Endereço Atual \_\_\_\_\_

Telefone \_\_\_\_\_

2 Que especialista gostaria de visitar hoje?

( ) medicina interna ( ) oftalmologia

( ) cirurgia ( ) psiquiatria

( ) ortopedia ( ) odontologia

( ) urologia

( ) pediatria

( ) obstetrícia e ginecologia

3 Marque com ✓ onde você tem o problema.

( ) diarreia ( ) vertigem

( ) constipação ( ) um frio

( ) náusea ( ) febre

( ) a gravidez ( ) uma tosse

4 Responda com ✓ a seguinte pergunta.

©Eu chamo sobre você.

Foi dito que eu sou asma.

Havia uma alergia de medicina e a comida tão longe.

Foi dito que pressão sanguínea era alta.

Foi dito que eu sou diabete.

Foram causadas convulsões e convulsões.

Consciência desapareceu e perdeu consciência.

Foi dito que um coração era ruim.

Eu tenho grande doente.

Eu transfundi isto.

Eu pego frio agora.

Durante um mês, eu sofri destas epidemias recentemente.

(a) Sarampo (b) Catapora

(c) Sarampo alemão

Eu fumo. (Número de 1° )

Eu bebo licor. (  muito  pouco )

問診票

1 以下の \_\_\_\_\_ に記入してください。

氏名

\_\_\_\_\_

性別

男 ・ 女

年齢

\_\_\_\_\_

生年月日

\_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日

現住所

\_\_\_\_\_

電話

2 本日は何科を受診されますか？

- |          |         |
|----------|---------|
| ( ) 内科   | ( ) 眼科  |
| ( ) 外科   | ( ) 精神科 |
| ( ) 整形外科 | ( ) 歯科  |
| ( ) 泌尿器科 |         |
| ( ) 小児科  |         |
| ( ) 産婦人科 |         |

3 あてはまる所に✓印をつけてください。

- |         |         |
|---------|---------|
| ( ) 下痢  | ( ) めまい |
| ( ) 便秘  | ( ) 寒気  |
| ( ) 吐き気 | ( ) 発熱  |
| ( ) 妊娠  | ( ) 咳   |

4

次の質問のあてはまる項目に✓印をつけてください。

◎あなた自身のことについてうかがいます。

- 喘息と言われたことがある。
- 今までに薬や食物のアレルギーがあった。
- 血圧が高いと言われたことがある。
- 糖尿病と言われたことがある。
- ひきつけや痙攣をおこしたことがある。
- 意識がなくなったり気が遠くなったことがある。
- 心臓が悪いと言われたことがある。
- 大きな病気をしたことがある。
- 輸血を受けたことがある。
- 今、風邪をひいている。
- 最近1ヶ月の間に、これらの伝染病にかかった。  
(a) はしか (b) 水痘 (c) 風疹等
- たばこを吸う。 (1日の本数 本)
- お酒を飲む。 ( □多い □少ない )

# 3

## 「住みやすいまちづくりのために」(人権全般)

### 実践する場面

①対象者 行政職員、教職員、各種社会教育関係団体員、地域住民（もしくは地域にかかわる人）等

②所要時間 90分

### 活動のねらい(ポイント)

自身の中にある固定観念を実感し、多様な価値観があることを知り、それを認めるよさに気づく。

### 準備するもの

ワークシート、記入用項目カード、グループ用の項目カード、グループ用のランキングシート、共通ふりかえりシート

### 進め方(展開例)

時間	学習の流れ(活動・内容)	留意事項	備考(資料等)
15分	<p>◆学習の確認(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会のねらい</li> <li>・日程</li> <li>・参加体験型学習における約束</li> </ul> <p>◆アイスブレイキング(10分)</p> <p>「後出しジャンケン」</p> <p>①進行役が出したグー、チョキ、パーに対して勝つようにしてジャンケンをする。</p> <p>②負けるようにしてジャンケンをする。</p> <p>③感じたことを数人が発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[参加体験型学習の約束]の内容を伝える。 ⇒P.5の4-(5)</li> <li>・時間があれば、あいこになるようにジャンケンをしてもよい。</li> <li>・どちらのジャンケンがやりづらかったかを聞く。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝つようにすることに比べ、負けるようにするには慣れていないことを確認する。</li> <li>・通常、ジャンケンには勝つためのものという意識や思い込みがあることに気づく。</li> </ul>			
	<p>◆アクティビティ1(60分)</p> <p>「住みやすいまちづくりのために」(ランキング)</p> <p>①個人でランキングをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住みやすいまちづくりのために9個の条件以外に大切だと思う条件を自分で1つ考え、白紙の項目カードに書き込む。</li> <li>・ランキング1位と10位を決め、10位をランキング外とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4人ぐらいのグループをつくる。</li> <li>・それぞれの活動を、時間を区切って行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート⇒P.26</li> </ul>

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	備考（資料等）
70分	<p>・残り8個の条件を重要だと思う順に並べてランキングシートに書き込む。</p> <p>②グループでランキングをつくる。 条件の中で大切なことは何か意見を交換しながら、グループのランキングをつくる。</p> <p>&lt;話し合いの柱&gt;</p> <p>・ランキング1位とランキング外のものについて、どういう基準で選んだか説明する。</p> <p>・参加者同士の意見が違うカードについて、それぞれの理由について意見を交換する。</p> <p>③グループの代表が全体に発表する。</p> <p>・1位とランキング外のものを発表する。その際、どのような基準で選んだものかもあわせて発表する。</p>	<p>・ランキングシートに条件（項目カード）を並べながら話し合いを進めるよう確認する。</p> <p>・ランキングすることによる意見の交換を重視する。</p>	<p>・グループ用の項目カード</p> <p>・グループ用のランキングシート</p> <p>⇒P.26</p>
	<p>・人の価値観は様々であり、多様なとらえ方があることに気づく。</p> <p>・様々な考えや違いを認めることによって、自分自身が豊かになることに気づく。</p>		
	<p>◆ふりかえり（10分）</p> <p>①今日の学習で気づいたことをふりかえりシートに記入する。</p> <p>②グループで意見交換をする。</p> <p>③グループで出た意見を全体に発表し、共有する。</p> <p>・グループ内で特に話し合った部分にふれるようにする。</p>		<p>・共通ふりかえりシート</p> <p>⇒P.13</p>
5分	<p>◆まとめ（5分）</p> <p>・ファシリテーターの話を聞く。</p>	<p>・活動のねらい（ポイント）をおさえる。</p>	

<参考資料「劇的人権学習ビフォーアフター」財団法人 滋賀県人権センター（2008年発行）>

### 学習を深めるために

- ・項目カードは、対象者によって内容をかえることもできる。項目の内容はシンプルで具体的なものがよい。

# ～「住みやすいまちづくりのために」～こうもく項目カード

あか  
明るい

あいさつ

こ  
子どもの

あそ ば かく ほ  
遊び場の確保

だんせい  
男性の

いく じ さん か  
育児参加

ち い き  
地域の清掃

せい そう び か かつ どう  
美化活動

こう れい しゃ  
高齢者への

おも  
思いやり

ろう どう じ かん  
労働時間の

たん し ゅ く  
短縮

ち い き  
地域の

かい さい  
イベント開催

こ そ だ し えん  
子育て支援の

じ ゅ う じ つ  
充実

ルールを

ま も し せい  
守る姿勢

※ じ ぶん じ ゆう 自分で自由につくってください。

## ◎ ランキングシート

①

②

②

③

③

③

④

④

⑤

ランキング外がいのもの⇒

## アイスブレイキング集・Part 1

アイスブレイキングは、学習プログラムに掲載されているもの以外にも、たくさんあります。ここでは、アイスブレイキングの例を紹介します。参加者やねらいに合わせて使用してください。

### わたしのプロフィール 所要時間 15分 ワークシート⇒P.28

#### ねらい

自己紹介をとおして話しやすい雰囲気をつくり出し、お互いをよく知るきっかけとする。

#### 進め方

- ① 4～6人グループになる。
- ② ワークシート「わたしのプロフィール」に各自記入する。
- ③ 1人ずつワークシート「わたしのプロフィール」にそって自己紹介をする。
  - ・「名前」をいう。
  - ・「今、わたしが興味をもっていること」とその理由を発表する。
  - ・「わたしの一文字」とその理由を発表する。
- ④ 順番に全員が発表する。

### 同じもの探し 所要時間 15分 ワークシート⇒P.29

#### ねらい

好みや考え方を伝え合うことで、他者理解やコミュニケーションを促す。

#### 進め方

- ① 5人グループになる。
  - ② ワークシート「同じもの探し」の「わたしの好きな食べもの」の欄に好きな食べものを5つ書く。
  - ③ 書き終わったらグループの中で各自のシートを回し、回ってきたシートに自分も好きだと思う食べものがあったら、その欄に自分の名前を書き込む。
  - ④ 全員分、回し終わったら感想を話し合う。
- ※「好きな食べもの」以外に、「好きなこと、もの」「うれしいこと、幸せなこと」等、書き込む内容を工夫してもよい。

アイスブレイキング集・Part 2はP.39にあります。

# わたしのプロフィール

なまえ  
名前

いま きょうみ  
今、わたしが興味をもっていること

## わたしの一文字

あなたを  
す 好きな一文字  
あらわ  
で表してください。

かんじ、ひらがな、アルファベット  
とう あらわ  
等で表してください。

できるだけ  
おお 大きな文字  
か  
で書いてください。

「わたしのプロフィール」には、公表してもかまわないことを書いてください。  
もし、書きたくない事項があれば、空欄のままにしておいてください。

# 「<sup>おな</sup>同じもの<sup>さが</sup>探し」

<sup>な</sup>名前<sup>まえ</sup>( )

	<sup>す</sup> わたしの好きな <sup>た</sup> 食べもの	<sup>じぶん</sup> 自分も好きであれば <sup>ひだり</sup> 左の欄 <sup>らん</sup> から <sup>じゅん</sup> 順に <sup>なまえ</sup> 名前 <sup>か</sup> を書いてください。				
1						
2						
3						
4						
5						

# 4

## 「バリアフリー社会をめざそう」（障害者の人権）

### 実践する場面

- ①対象者 社会教育施設職員、行政職員等
- ②所要時間 120分

### 活動のねらい（ポイント）

- ①人権感覚を養うとともに、職場における配慮事項について考える。
- ②障害の有無にかかわらず、誰もが安心して生活できるバリアフリー社会の構築について考える。

### 準備するもの

カード（アイスブレーキング用）、資料（提示用）、ワークシート、アイマスク、アイマスク体験用コース案内図

### 進め方（展開例）

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	備考（資料等）
15分	<p><b>導入</b></p> <p>◆学習の確認（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会のねらい</li> <li>・日程</li> <li>・参加体験型学習における約束</li> </ul> <p>◆アイスブレーキング（10分）</p> <p>「仲間をさがそう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①簡単な語句が書かれているカードを受け取り、確認する。</li> <li>②声を出さずに、同じ語句の人を探して集まる。</li> <li>③感想を出し合い、ふりかえる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [参加体験型学習の約束] の内容を伝える。 ⇒ P.5 の 4- (5)</li> <li>・ カードの語句は「はる」（春・張る・貼る） 「かつ」（勝つ・カツ・活）など 簡単に複数の意味をもつものがよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カード</li> </ul>
<p>・ 音声言語を使わずにコミュニケーションを図ることの難しさに気づく。</p>			
100分	<p><b>展開</b></p> <p>◆アクティビティ1（35分）</p> <p>「職場に必要なコミュニケーションボードを考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①既存のコミュニケーションボードを確認する。</li> <li>②自分たちの職場用のコミュニケーションボードを考える。</li> <li>③作成しているときの気持ちなどをグループでふりかえる。</li> <li>④グループで出た意見を全体に発表し、共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ わかりやすくシンプルなものがよいことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料(提示用) ⇒ P.32</li> <li>・ ワークシート ⇒ P.33</li> </ul>
<p>・ 音声言語以外のコミュニケーションの1つの方法を考えることで、配慮事項についての視野を広げる。</p>			

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	備考（資料等）
	<p>◆アクティビティ 2（60 分） 「アイマスク体験」（疑似体験）</p> <p>① 2 人 1 組で、アイマスクをする人、誘導する人を決めて行い、途中で役割を交替する。</p> <p>② 実際に建物内や街中を歩いて次のものや動作を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 種類の点字ブロック</li> <li>・ 段差 ・ 受付カウンター</li> <li>・ 出入口 ・ トイレ</li> <li>・ スロープの昇降</li> <li>・ エレベーター</li> <li>・ 自動販売機の商品の購入等</li> </ul> <p>③ 体験して感じたことについて意見を交換する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前にコースを設定しておく。特に、屋外に出る場合は、安全に留意する。</li> <li>・ 誘導する場合、体験者の利き腕の反対側に立ち、誘導者の肘又は肩につかまってもらうよう指示する。</li> <li>・ 誘導する人は半歩前を歩き、段差や曲がる方向の指示を短い言葉で明確に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイマスク</li> <li>・ アイマスク体験用コース案内図</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイマスク体験をとおして、日頃何気なく利用したり通行したりしているところに多くの工夫や配慮がなされていることに気づく。</li> <li>・ 移動や施設利用等で、日頃危険性を感じていないような場所が危険だったり、日頃得ている情報が得られなかったりすることに気づく。</li> </ul>		
	<p>◆ふりかえり（5 分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アクティビティ 1、2 をとおして考えたこと、気づいたことを中心にふりかえる。</li> </ul>		
まとめ 5 分	<p>◆まとめ（5 分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファシリテーターの話を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動のねらい（ポイント）をおさえる。</li> <li>・ 身近なできごとからテーマに関連したエピソードを紹介してもよい。</li> </ul>	

### 学習を深めるために

- ・ 「アイマスク体験」のかわりに、「車椅子体験」（P.61 参照）を取り入れてもよい。
- ・ 点字や手話などの学習を取り入れ、人権意識を高めていってもよい。

### ●参考

- ・ アイマスク体験が掲載（紹介）されているホームページ  
URL <http://view-net.org/>  
特定非営利活動法人神奈川県視覚障害者情報雇用福祉ネットワーク
- ・ コミュニケーションボードが掲載（紹介）されているホームページ  
URL <http://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/safetynet/cboard.html>  
セイフティーネットプロジェクト横浜（事務局／社会福祉法人横浜市社会福祉協議会障害者支援センター）
- ・ 点字ブロックが掲載（紹介）されているホームページ  
URL <http://www.tsrc.or.jp/> 財団法人安全交通試験研究センター

# コミュニケーションボード

みせ  
**お店**

Shop



つた  
**わたしの伝えたいこと**  
What I want to communicate



**どこに？**  
Where?



**いくらですか？**  
How much?



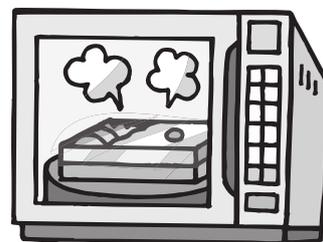
**でんわしてください**  
Please call



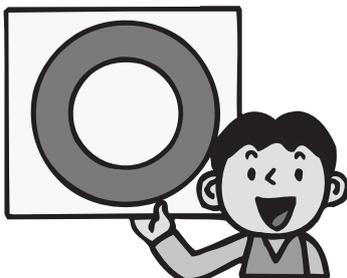
**わかりません**  
I don't understand



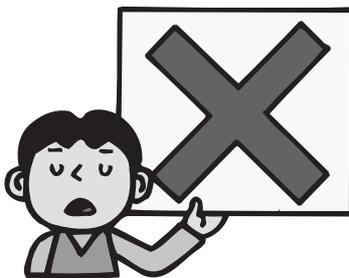
**やめてください**  
Please stop



**あたためてください**  
Please warm it



**はい**  
Yes



**いいえ**  
No



**トイレ**  
Restroom

## コミュニケーションボード

わたしの<sup>つた</sup>伝えたいこと


# 5

## 「窓口対応における人権」(人権全般)

### 実践する場面

- ①対象者 行政職員等
- ②所要時間 90分

### 活動のねらい(ポイント)

- ①行政職員として必要な人権感覚(固定観念や偏見の払拭)を養う。
- ②だれにとっても優しい窓口対応について考える。

### 準備するもの

資料1の絵カードの入った白い封筒、資料2の解説カードの入った茶色の封筒、絵カードの拡大判、ワークシート、せんべい

### 進め方(展開例)

時間	学習の流れ(活動・内容)	留意事項	備考(資料等)
導入 20分	<p>◆学習の確認(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会のねらい</li> <li>・日程</li> <li>・参加体験型学習における約束</li> </ul> <p>◆アイスブレイキング(15分)</p> <p>「わたしのペアは？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①絵カードまたは解説カードのどちらか一方のカードを受け取る。</li> <li>②声を出さずに、絵カードをもつ人は相手となる解説カードをもつ人を、解説カードをもつ人は相手となる絵カードをもつ人を探し、ペアをつくる。</li> <li>③相手と思う人が見つかったら、前から席に着く。</li> <li>④絵と解説が一致するかを確認する。</li> <li>⑤感じたことを数人が発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[参加体験型学習の約束]の内容を伝える。 ⇒P.5の4-(5)</li> <li>・参加者が奇数の場合、ペアになるように、運営側から1人ワークに参加する。</li> <li>・ペアが見つからなくても、5分程度で確認に入る。</li> <li>・参加者が感じたことをもとにファシリテーターがまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1の絵カードの入った白い封筒 ⇒P.36</li> <li>・資料2の解説カードの入った茶色の封筒 ⇒P.37</li> <li>・資料1の絵カードの拡大判 ⇒P.36</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・声を出して話せないもどかしさやコミュニケーションの大切さ。</li> <li>・身振り、手振りも重要な伝達の方法であること。</li> <li>・思いこみがあると正確には情報を伝えられないことや受け取れないこと。</li> </ul>			
	<p>◆アクティビティ1(20分)</p> <p>「わたしの大切なおせんべい」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①各グループの机の上に並べられたせんべいから1人1枚取り、裏面の番号を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4~5人のグループで行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・せんべい(1枚ずつ袋に入ったせんべい)</li> </ul>

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	備考（資料等）		
展 開  65分	②番号が見えないようにせんべいを戻し、並べ直された中から初めに取ったせんべいを選び、裏の番号を確かめる。 ③探し当てられなかった理由を発表する。 (例)・じっくり見ていなかった。 ・どれも同じように見えた。 ④新たに手にしたせんべいの特徴を見つけて名前をつける。 ⑤せんべいを戻し、並べ直された中から、名前をつけたせんべいを選び、裏の番号を確かめる。 ⑥つけた名前と探し当てられた理由や感想をグループごとに話し合う。 ⑦グループで出た意見を全体に発表し、共有する。	・選んだものがどれかわからないようにランダムに並べ直す。 ・ファシリテーターが2～3人指名して感想を聞く。  ・再びせんべいを回収し、ランダムに並べ直す。  ・理由や感想を生かしてファシリテーターがまとめる。	いをグループの人数より2～3枚多く準備する。豆やごまの入ったせんべいのほうが使いやすい。)		
	・「せんべい」はみな同じものという思いこみをしていたが、よく見ると違いがあるということに気づく。 ・人もそれぞれ違いがあるので、個性をとらえ、一人ひとりをよく知ろうとすることが大切である。				
	◆アクティビティ2（35分） 「あなたならどうする」 ①事例を読み、行動の原因とその対応を各自で考え、ワークシートに書く。 ②グループごとに話し合う。 ③グループで出た意見を全体に発表し、共有する。	・それぞれの人の立場や思いを考えるよう助言する。 ・書いたことを数人に発表してもらい、それをもとにまとめる。	・ワークシート ⇒ P.38		
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; padding: 5px;"> <b>考えられる原因</b> (例)                              ・耳が不自由                              ・書かれた言葉の意味がわからない (含む外国籍の方)                              ・説明がわかりにくい                              ・文字が書けない                              ・目が不自由                              ・個人情報があり、書きたくない                         </td> <td style="width:50%; padding: 5px;"> <b>その対応</b> (例)                              ・ジェスチャー、筆談、手話で説明する                              ・絵や図を使って説明する                              ・ゆっくり丁寧に話す                              ・聞き取って書く                              ・書ける範囲で書くように伝える                         </td> </tr> </table>				<b>考えられる原因</b> (例) ・耳が不自由 ・書かれた言葉の意味がわからない (含む外国籍の方) ・説明がわかりにくい ・文字が書けない ・目が不自由 ・個人情報があり、書きたくない	<b>その対応</b> (例) ・ジェスチャー、筆談、手話で説明する ・絵や図を使って説明する ・ゆっくり丁寧に話す ・聞き取って書く ・書ける範囲で書くように伝える
<b>考えられる原因</b> (例) ・耳が不自由 ・書かれた言葉の意味がわからない (含む外国籍の方) ・説明がわかりにくい ・文字が書けない ・目が不自由 ・個人情報があり、書きたくない	<b>その対応</b> (例) ・ジェスチャー、筆談、手話で説明する ・絵や図を使って説明する ・ゆっくり丁寧に話す ・聞き取って書く ・書ける範囲で書くように伝える				
・行政の担当者として、日ごろから、相手の立場に立って、その人に必要なことやその人の考え、気持ちがわかる想像力や、共感的に理解する力を磨くことが大切である。 ・相手のことを思いやりながら、考えや気持ちを豊かに表現して伝え合い、分かり合うコミュニケーション能力を磨くことも大切である。					
	◆ふりかえり（10分） ①今日の学習で気づいたこと、考えたことをワークシートに書く。 ②書いたことを発表する。				
ま と め  5分	◆まとめ（5分） ・ファシリテーターの話聞く。	・活動のねらい（ポイント）をおさえる。			

アイスブレイキング「わたしのペアは？」

絵カード



※必要数複写して切り離し、1枚ずつ白い封筒に入れる。

## 解説カード

<p><small>あか</small> 赤ちゃんを<small>だ</small>抱いている えりか さん</p>	<p><small>あか</small> 赤ちゃんをおぶっている ちはる さん</p>
<p>バドミントンをしている すぎぞう さん</p>	<p>テニスをしている しょう さん</p>
<p><small>いぬ</small> <small>さん</small> <small>ぼ</small> 犬と散歩をしている はるか さん</p>	<p>ジョギングをしている ちあき さん</p>

※必要数複写して切り離し、1枚ずつ白い封筒に入れる。

アクティビティ2 「あなたならどうする」ワークシート

# こんな時あなたはどうしますか？

## 事例

施設の会議室を利用した方が鍵を返しに来ました。そこで、「使用報告書を書いてください。」とお願いし、書き方を説明しましたが、なかなか書いてくれません。

なぜ書いてくれないのだと思いますか？

どう対応すればよいでしょうか？


### ◆ ふりかえり

今日の学習をふりかえって、気づいたこと、考えたことを書きましょう。

## アイスブレーキング集・Part 2

アイスブレーキングは、学習プログラムに掲載されているもの以外にも、たくさんあります。ここでは、アイスブレーキングの例を紹介します。参加者やねらいに合わせて使用してください。

### いいところみつけ 所要時間 10分

#### ねらい

お互いのことをよく知り、自尊感情を高める。

#### 進め方

- ①隣の人とペアになり、じゃんけんをして勝った人は自己紹介、負けた人は聞き役になる。
- ②勝った人は名前を言ってから「今日の意気込み、今がんばっていること」などを話す。(1分)
- ③自己紹介が終わったら聞き役は「それは素晴らしいですね。」と絶賛し、どこが素晴らしいのか、その理由を伝える。(30秒)
- ④自己紹介した人はお礼を言い、役割を交代する。
- ⑤ふりかえりを行う。

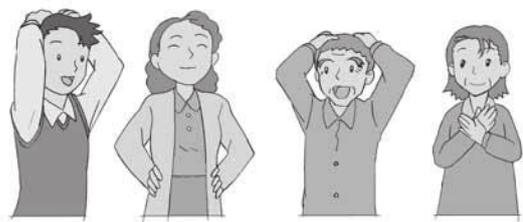
### あわせてポン 所要時間 10分

#### ねらい

声を出したり体を動かしたりしながら参加者同士の交流を図り、リラックスした雰囲気をつくる。

#### 進め方

- ①3つのポーズ（両手を頭・胸の前でクロス・腰）の中からひとつ選び、「ポーズを合わせてジャンケンポン。」と言いながらポーズをする。
- ②全員立ってから始める。
- ③1回目：ファシリテーター対参加者全員で行う。  
ファシリテーターと同じものを出した人から座る。
- ④2回目：2人組で行う。2人で同じものを出したら座る。
- ⑤3回目：4人組で行う。4人全員で同じものを出したら座る。  
※ 担当者のリードで揃って行う。



## ピン・ポン・パン

所要時間 10分

### ねらい

声以外のコミュニケーションを使い、和やかな雰囲気をつくる。

### 進め方

① 6～10人のグループをつくる。

#### 【1回目】

- ② 輪になった状態で、最初の人、だれか1人とアイコンタクトをとり、その人をさしながら「ピン」と声に出して言う。
- ② さされた相手は、別の誰かとアイコンタクトをとり、その人をさしながら「ポン」と言う。
- ③ 「ポン」とさされた人は「パン」と言いながら次の人をさし座る。（「パン」と言った人だけが座れる。）
- ④ 同じように次から次へと「ピン・ポン・パン」と続けていき、残りが2人になったところでいったん終了する。

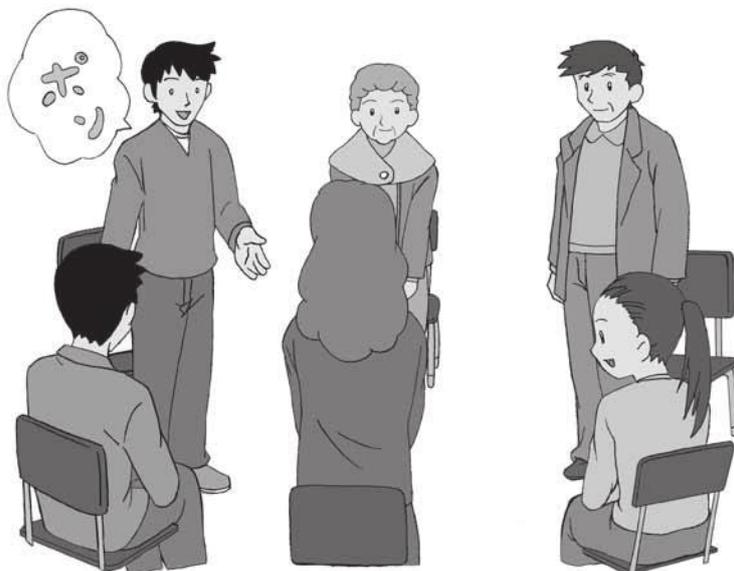
#### 【2回目】

- ⑤ 2回目は、アイコンタクトと声（「ピン」「ポン」「パン」と言う）だけで、相手をささずに「ピン・ポン・パン」をする。

#### 【3回目】

- ⑥ 3回目は、アイコンタクトだけで、声を出さずに「ピン・ポン・パン」をする。

\* 6～10人のグループで行う。



## いっしょを見つけよう 所要時間 5分

### ねらい

ペアを組んだ相手との共通点を見つけて共感してもらえるうれしさを体験し、リラックスした雰囲気をつくり出す。

### 進め方

- ① 2人組をつくる。(難易度は上がるが3人組でも可)
- ② 1人が質問する側になって、自分の好きなものを相手も好きか1分間質問する。
- ③ 質問を受ける側は、好きなもの場合は「好きです。」と言う。あまり好きではない場合は「いいえ。」と言う。
- ④ 質問する側は、「好きです。」と言ってもらえた数を数えておく。
- ⑤ 1分間終了後、役割を交代して同じことを行う。

猫は好きですか？

## みんなの1円玉 所要時間 10分

### ねらい

何気なく見ているものをあらためて思い浮かべてみると、実はよく見ていないということに気づく。

### 進め方

- ① 各自で1円玉を頭の中に思い浮かべる。
- ② 表面、裏面をできるだけ詳しく描く。
- ③ 隣の人と絵を見せ合いながら、描いた1円玉について話をする。
- ④ 1円玉を拡大したものを表示するか、実際に確認する。

?

6

# 「それぞれの立場で考えよう ～家庭・地域・学校での男女共同参画～」(女性の人権)

## 実践する場面

①対象者 行政職員、教職員、PTA 会員 (小・中・高校生をもつ保護者)、  
各種社会教育関係団体員、企業関係者等

②所要時間 90 分

## 活動のねらい (ポイント)

- ①一人ひとりの考え方の違いに気づき、認め合う気持ちをもつ。
- ②年齢・立場・職業等様々な市民が、それぞれの立場で話し合うことによって、家庭・地域・学校で男女共同参画を推進していく上での課題や取り組むべき方向について考える。

## 準備するもの

4つのコーナーの掲示物、ワークシート (A4判の用紙を人数分、A3判に拡大したものをグループ分)、ふりかえりシート

## 進め方 (展開例)

時間	学習の流れ (活動・内容)	留意事項	備考 (資料等)
導入 20分	<p>◆学習の確認 (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会のねらい</li> <li>・日程</li> <li>・参加体験型学習における約束</li> </ul> <p>◆アイスブレーキング (15分)</p> <p>「4つのコーナー」</p> <p>①問題を聞く。</p> <p>[問題例]</p> <p>第1問「夏が好きだ」 第2問「〇〇市の男女共同参画は進んできた」</p> <p>②「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」のうち、自分に一番あてはまるコーナーに行く。</p> <p>③それぞれ集まった場所でファシリテーターに指名された人は、そこを選んだ理由を発表する。</p> <p>④「4つのコーナー」を行ってみての感想を発表する。(数名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [参加体験型学習の約束] の内容を伝える。 ⇒ P.5 の 4- (5)</li> <li>・ できるだけ机等のないスペースで行う。</li> <li>・ 「4つのコーナー」の掲示物を部屋の四隅等に掲示しておく。</li> <li>・ あまり考えすぎないで移動してもらう。</li> <li>・ なぜそこを選んだのか理由を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「4つのコーナー」の掲示物 ⇒ P.44</li> </ul>
<p>様々な考え方があることやどれもまちがっていないことに気づく。</p>			
	<p>◆アクティビティ (60分)</p> <p>「わたしはできる？」</p> <p>①個人でワークシート (A4判) に自分 はできるかできないかで○をつける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な立場の参加者がいっしょになるように6人グループをつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークシート (A4判) ⇒ P.45</li> </ul>

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	備考（資料等）
展開 65分	<p>②グループで話し合いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介をする。</li> <li>・司会・記録者を決める。</li> <li>・ワークシート（A3判）にそれぞれの結果を記入する。</li> <li>・話し合いをする。</li> </ul> <p>③グループで出た意見を全体に発表し、共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを確認したり、自分とは違う立場の人の考えや実態を知ったりすることがねらいであることを伝え、「できない」に○をつけることに抵抗感がないようにする。</li> <li>・なぜ、そこに○をつけたか、今後、どうしていきたいか等を話題として意見交換できるようにする。</li> <li>・キーワードを板書しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A3判に拡大したもの ⇒ P.45</li> </ul>
<p>・知識としては「大事なこと」だとわかっている、実際に行動に移すことが難しい場合もある。</p> <p>・立場や世代によっても考え方や行動に違いがある場合もある。</p> <p>・物事を進めていく上で、「現在、あるいは実際はどうか」という実態を知らないと、いくら目標を立ててもうまく進まない。それぞれの立場の人の考えを聞き、実態を知ることがとても大切である。</p>			
	<p>◆ふりかえり（10分）</p> <p>①今日の学習で気づいたことをふりかえりシートに記入する。</p> <p>②グループで意見交換をする。</p> <p>③グループで出た意見を全体に発表し、共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で特に話し合った部分にふれるようにする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通ふりかえりシート ⇒ P.13</li> </ul>
まとめ 5分	<p>◆まとめ（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーターの話を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動のねらい（ポイント）をおさえる。</li> </ul>	

### 学習を深めるために

- アクティビティで使用するワークシートの内容は、主として1・2が家庭、3・4・5が職場、6・7・8が学校、9・10が地域、11・12が文化・伝統分野の内容である。ねらいや対象によって、内容をかえるとよい。

そう<sup>おも</sup>思う

ややそう<sup>おも</sup>思う

あまりそう  
<sup>おも</sup>思わない

そう<sup>おも</sup>思わない

## アクティビティ「わたしはできる？」

あなたはできますか？ できませんか？ あてはまる欄に○を書きましょう。

		できる	できない
1	「主人・奥さん・旦那さん」ということは使わない。		
2	「女だから」「男だから」「女のくせに」「男のくせに」という考えはもたないし、その言葉は使わない。		
3	職場では、どんな時も男女ではなく能力・適性で仕事の役割を決める。		
4	男性でも女性でも制度の中で育児休暇をとることを心から歓迎する。		
5	職場に男性が化粧をしてくるのを認める。		
6	ランドセルは、子どもが好きな色を購入する。 (例：女子が青でも、男子がピンクでもよい。)		
7	PTAの学級の委員は男女の別なく選ぶ。		
8	「中学校の制服を男女同じ（または選択）でよいか。」という論議があったら賛成する。 (例：女子がスラックス、男子がスカートでもよい。)		
9	地区の会議や祭りの準備などは、男女で役割を分けない。		
10	地域の役員（自治会・民生委員等）は男女の別なく選ぶ。		
11	「ひなまつり・端午の節句は男女の別なく祝う日にする。」という論議があったら賛成する。		
12	「すもうの土俵に女性知事等があがってもよいか。」という論議があったら「あがってもよい」に賛成する。		

# 7

## 「画面の向こうに相手がいる」(インターネットによる人権侵害)

### 実践する場面

- ①対象者 PTA会員(小・中・高校生をもつ保護者)等
- ②所要時間 120分

### 活動のねらい(ポイント)

- ①インターネットによる人権侵害の課題意識を高める。
- ②メール・プロフィールサイト・掲示板・ブログ等へ書き込むときに配慮すべきことを考える。

### 準備するもの

DVD「ネットの暴力を許さない」、DVDプレーヤー、ワークシート1・2、資料

### 進め方(展開例)

時間	学習の流れ(活動・内容)	留意事項	備考(資料等)
15分	<p>◆学習の確認(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会のねらい</li> <li>・日程</li> <li>・参加体験型学習における約束</li> </ul> <p>◆アイスブレイキング(10分)</p> <p>「あてっこ自己紹介」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①グループ内でジャンケンをし、勝った人が自己紹介を行う役、他の人が聞き役となる。</li> <li>②自己紹介をする人は名前だけをいう。</li> <li>③聞き役は、自己紹介役の名前を聞いたら、その人の「好きなもの、こと」を直感で予想して1ついう。 「Aさんは△が好きそう。」</li> <li>④全員言い終わったら、自己紹介役は聞き役がいった自分の「好きなもの、こと」に対して答える。</li> <li>⑤役割を交代して全員が自己紹介を行う。</li> <li>⑥全員終わったら、感想を各グループで話し合う。</li> <li>⑦グループで出た感想を全体に発表し、共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[参加体験型学習の約束]の内容を伝える。 ⇒P.5の4-(5)</li> <li>・グループは4人1組ぐらいが意見交換しやすい。</li> <li>・②～④を1人2分程度でやりとりしていけるようにする。</li> <li>・直感で予想し、1つ伝えるように促す。</li> <li>・数名に発表してもらい、その発表を生かしながらまとめる。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージとの違いを再確認する。</li> <li>・勝手な思い込みから他の人を判断している場合が多いことに気づく。</li> </ul>		

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	備考（資料等）
展開 95分	<p>◆アクティビティ1（10分） 「何のことか知っていますか？」 ①ワークシート1の質問の答えを記入する。 ②答え合わせをしながら、ワークシート1の①～⑦について聞いたことがあるか、利用しているかを話し合う。</p> <p>◆アクティビティ2（80分） 「ネットの暴力を許さない」（19分） （ビデオフォーラム） ①視聴する。 ②ワークシート2の（1）（2）を記入する。 ③各グループで話し合う。 ④「書き込むときの家庭の〇カ条」をグループで作成する。 ⑤各グループで作成した「書き込むときの家庭の〇カ条」を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート2上段を視聴の際に、メモ欄として活用するよう伝える。</li> <li>・子どもが書き込んだ側（匿名で行動する）や書き込まれた側になったときのことを考えるよう助言する。</li> <li>・「書き込むときの家庭の〇カ条」の条項数は参加者の実態に合わせて決めてよい。</li> <li>・書き込むときに配慮すべきことから約束を考えるように伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート1⇒P.48</li> <li>・DVDプレーヤー</li> <li>・「ネットの暴力を許さない」（DVD）</li> <li>・ワークシート2⇒P.49</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット等への書き込みにあたっては保護者だけでなく、子どもたちにも人権侵害に当たる行為を見抜く人権感覚を身につけさせることが大切である。</li> <li>・インターネット等は人と人をつなぐ有用なコミュニケーションツールであるが、その使い方については約束をつくる等の工夫が必要である。</li> </ul>		
	<p>◆ふりかえり（5分） ・アクティビティ1、2をとおして考えたこと、気づいたことを中心にふりかえる。</p>		
まとめ 10分	<p>◆まとめ（10分） ①ファシリテーターの話を聞く。 ②トラブルに巻き込まれたときの対応について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動のねらい（ポイント）をおさえる。</li> <li>・資料を配付し、具体的な対応策について伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料⇒P.50</li> </ul>

### 学習を深めるために

●通信会社等で行っている講座型の研修を依頼し、併せて実施することも効果的である。

※使用DVD資料「ネットの暴力を許さない」東映株式会社教育映像部制作

神奈川県生涯学習情報センターにて貸し出し可能です。⇒P.51～53参照

# 何のことだか知っていますか？

次の言葉を知っていますか。あてはまるところに○をつけ、下の□のア～キの中からその意味を選び、記号を書きましょう。

- ① プロフ  
( 知っている 聞いたことがある 知らない ) 意味 ( )
- ② SNS  
( 知っている 聞いたことがある 知らない ) 意味 ( )
- ③ 掲示板  
( 知っている 聞いたことがある 知らない ) 意味 ( )
- ④ □コミサイト  
( 知っている 聞いたことがある 知らない ) 意味 ( )
- ⑤ ブログ  
( 知っている 聞いたことがある 知らない ) 意味 ( )
- ⑥ なりすましメール  
( 知っている 聞いたことがある 知らない ) 意味 ( )
- ⑦ チェーンメール  
( 知っている 聞いたことがある 知らない ) 意味 ( )

ア 複数の人数に対して転送するように促すメール。  
イ 「ウェブログ」の略。個人や数人のグループで管理運営され、日記のように更新されるウェブサイト。  
ウ ソーシャルネットワーキングサービスの略。コミュニティ型の会員制のウェブサイトのこと。  
エ 第三者になりすまして送られてくるメールのこと。  
オ インターネット上で、様々な物事の評判を情報交換するためのウェブサイトのこと。  
カ 「プロフィールサイト」の略で、パソコンや携帯電話からインターネットを利用して、自己紹介サイトを作成することができる。  
キ 参加者が自由に文章等を投稿することで、コミュニケーションを行うことができるウェブサイト。

<参考資料「ネット上のいじめ」に関する対応マニュアル・事例集（学校・教員向け）文部科学省（平成20年11月）>

ぼうりよく ゆる しちょう  
「ネットの暴力を許さない」を視聴して

(1) かんそう き はな あ  
感想や気づいたことを話し合みましょう。

(2) こ けいじばん どう ま こ  
子どもがメール・プロフ・掲示板・ブログ等でトラブルに巻き込まれたらどのようにたいおう  
対応しますか。

か こ か てい かじょう  
「書き込むときの家庭の○か条」をつくろう！

か こ か てい かじょう  
書き込むときの家庭の○か条

# 被害者・加害者にならないために

## 1 掲示板に悪口などの書き込みをしてしまったときの対応

- ・ 名前を書いた本人に対してきちんと謝罪する。
- ・ 掲示板を管理している人に対して謝罪し、書き込みを削除するように依頼する。
- ・ 誠実な態度で臨む。

## 2 掲示板に悪口などを書き込まれたときの対応

- ① 画面を保存する。
- ② 学校や人権に関わる関連機関（県や市町村の人権窓口等）に連絡するか、掲示板の管理者に対し、保存した内容を添付して削除要請をする。
- ③ プロバイダーに対して削除要請を依頼する。

## 3 加害者にならないために

- ・ インターネットは匿名ではないことを認識する。
- ・ インターネット上であっても、画面の向こうには相手がいることを常に意識し、書き込むときは相手の気持ちを考える。
- ・ うわさやうそを書き込まない。
- ・ 文字によるコミュニケーションは細かな気持ちが伝わらず、誤解を招くこともあるので言葉の使い方には十分注意する。
- ・ 責任は全て自分にあることを常に意識する。
- ・ 悪口や差別的な表現で人を傷つけることは人権侵害であることを意識する。
- ・ 他人の個人情報を書き込まない。
- ・ チェーンメールは絶対に転送しないですぐに削除する。

<参考資料> 神奈川県教育委員会ホームページより

- 「子どものケータイ 安全・安心な利用のために」

携帯電話使用の指導・啓発に関するリンク集

URL <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f300473/>

- 携帯電話サイト「かながわモード」より

URL <http://www.pref.kanagawa.jp/mbl/f100021/>

<相談窓口> 神奈川県警察「暮らしの安全情報」

URL <http://www.police.pref.kanagawa.jp/index2.htm>

# 人権教育ビデオ・DVDの活用の仕方

## ◆人権課題の分野別に紹介

人権全般（複数の課題が含まれる）と「かながわ人権施策推進指針」による人権課題である子どもの人権、女性の人権、障害者の人権、高齢者の人権、患者等の人権、同和問題、外国籍県民の人権、ホームレスの人権、犯罪被害者等の人権、その他の人権に分類しています。

## ◆人権教育ビデオ・DVD目録の見方

### ①番号はビデオの整理番号です。

番号が大きい方ほど最近配置した新しいビデオ・DVDです。  
枠の中を色で塗りつぶしている番号のものはDVDです。

### ②制作年が不明なものについては空欄になっています。

### ③形態の記号は省略した言葉です。

カ…解説 キ…記録  
ド…ドラマ レ…歴史  
ア…アニメーション  
他…上記以外の形態

ビデオ・DVD目録

番号	ビデオ・DVD名	制作年	分野	形態	時間(分)
225	働きやすい職場をめざして	2007	人	ドカ	25

(例) ドカ…ドラマと解説

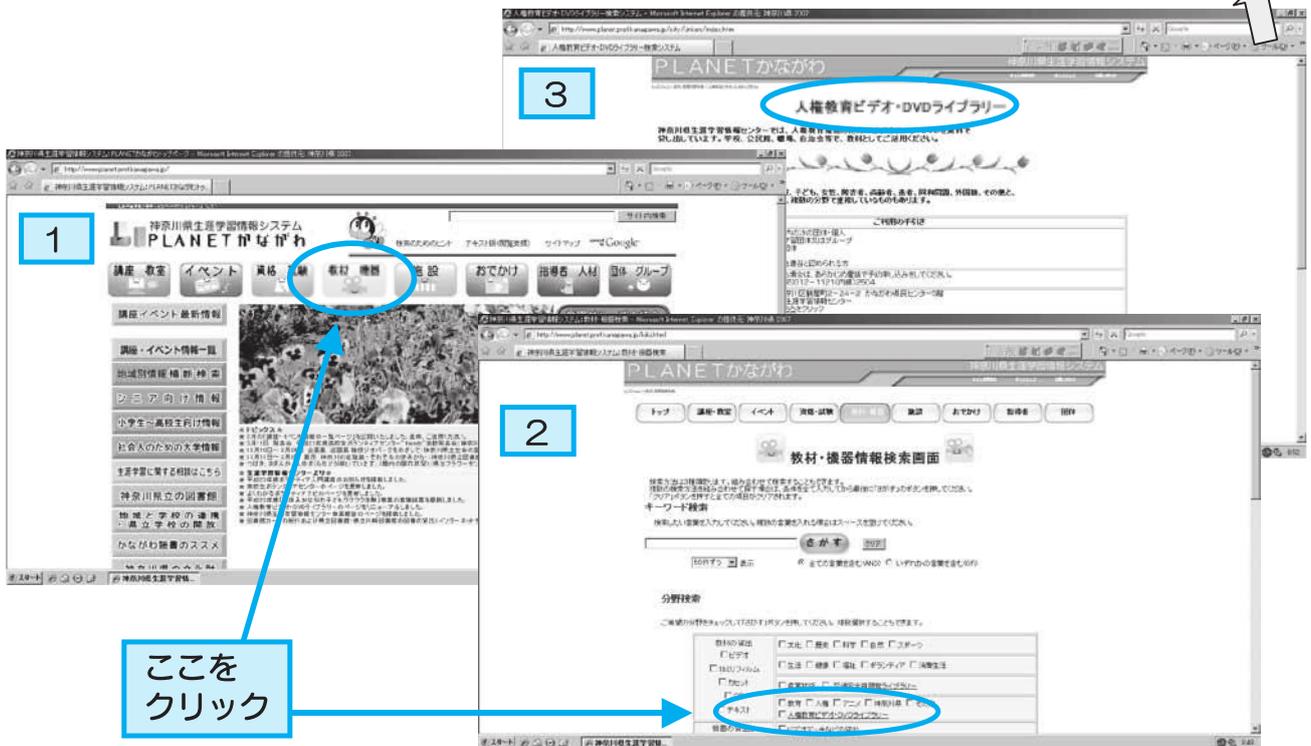
◇紹介しているビデオ・DVDはすべて神奈川県生涯学習情報センター所蔵のものです。

## HP「PLANETかながわ」による検索

<http://www.planet.pref.kanagawa.jp/>

PLANETかながわ

検索



ここをクリック

<出典「人権啓発ビデオ・DVD活用事例集～学習プログラムの実際～」神奈川県教育委員会(平成21年発行)>

神奈川県生涯学習情報センター所蔵ビデオ・DVDの近年のタイトル

番号	ビデオ・DVD名	制作年	分野	形態	時間 (分)
225	働きやすい職場をめざして	2007	人	ドカ	25
226	いじめはゼツタイわるい!	2007	子	ア	12
227	中学生のいじめを考える	2007	子	ドカ	19
228	人権を行動する(字幕入り)	2007	人	ド	25
229	夕映えのみち(字幕入り)		人	ド	38
230	名前…それは燃えるいのち(字幕入り)	2006	子	ア	18
231	いじめ脱却マニュアル		子	カ	32
232	こころに咲く花(字幕入り)		人	ド	35
233	ひまわりのように(字幕入り)		人	ア	42
234	知的障害者の雇用への道	2007	障	キ	27
235	桃色のクレヨン(字幕入り)	2006	子	ア	28
236	企業と人権第3弾「外国人労働者問題から 多民族共生を考える」(字幕入り)	2007	外	キ	37
237	ハードル	2004	子	ア	84
238	私たちにできること	2007	犯	ドカ	23
239	一人で悩まないで! ～広めよう犯罪被害者支援の輪～	2007	犯	カ	27
240	職場の人権～相手のきもちを考える～	2008	人	ド	27
241	選考基準 公正な採用のために(字幕入り)	2008	人	ドカ	24
242	傷つけられる思春期 ～子どもとの会話を取り戻すために～	2008	人	ド	25
243	パワー・ハラスメントと人権(字幕入り)	2008	人	ド	43
244	おれたち、ともだち!	2006	子	ア	52
245	見上げた青い空(字幕入り)	2007	子	ド	34
246	障害のある人とのふれあいと人権(字幕入り)	2008	障	カ	23
247	高齢者虐待-尊厳を奪わないために-(字幕入り)	2008	高	ドカ	26
248	HIV/エイズってなに? 2. HIVと共に生きて編	2006	患	カ	85
249	部落の歴史(中世～江戸時代)(字幕入り) ～差別の源流を探る～	2007	同	レ	27
250	部落の歴史(明治～現代)(字幕入り) ～近代化が存続させた差別～	2007	同	レ	26
251	差別っていったい何やねん -歩く水平社宣言・川口泰司-	2004	同	キ	30
252	犯罪被害者の人権を守るために	2003	犯	カ	33
253	公正採用選考のこころ	2008	人	ド	25
254	親愛なる、あなたへ	2008	人	ド	37
255	ねずみくんのきもち	2008	子	ア	12
256	ひとみ輝くとき	2008	子	ド	35
257	二つの道	2006	子人	ド	30
258	ある日突然最愛の娘を奪われて -犯罪がその後にもたらすもの-	2008	犯	ドカ	41
259	日常の人権Ⅰ-気づきから行動へ-	2009	子女高	ド	23
260	日常の人権Ⅱ-気づきから行動へ-	2009	外障	ド	23
261	声を聞かせて	2008	イ	ア	40
262	えっ!これも人権?～4コマ劇場より～	2007	人	マ実	30
263	ケータイ・パソコン その使い方大丈夫?	2008	イ	ドカ	22
264	幼児・児童虐待 見えない虐待をしないために	2008	子	ドカ	25

## 神奈川県生涯学習情報センター所蔵ビデオ・DVDの近年のタイトル

番号	ビデオ・DVD名	制作年	分野	形態	時間 (分)
265	私が私らしくあるために職場の コミュニケーションと人権	2009	人	ド	26
266	いのち輝くとき	2001	子	ド	30
267	ネットの暴力を許さない	2009	イ	ド	19
268	「ホームレス」と出会う子どもたち	2009	ホ	キ	75
269	めぐみ	2008	他	ア	25
270	あなたが、あなたの家族や友人が 犯罪被害者になったら	2010	犯	キカ	32
271	人と人とのよりよい関係をつくるために	2010	人	キカ	42
272	10分でわかる！思春期の恋バナ	2011	他	キ	10
273	勇気あるホテルととべないホテル	1990	障	ア	17
274	ぬくもりの彩 (いろ)	2003	高同	ド	36
275	老いを生きる －今日も何処かで高齢者のサインが！－	2007	高	ド	35
276	おはようの音が響く街に！	2002	高同	ド	35
277	よっちゃんの不思議なクレヨン	1996	他	ア	22
278	あの空の向こうに	2010	イ	ド	38
279	小学生の人権 パート1 思いこみに気づく	2009	障ホ	キカ	14
280	小学生の人権 パート2 大切なわたし 大切なあなた	2009	人	子人	15
281	地域の虐待防止幼い命の悲鳴を救うために	2001	子	ドカ	26
282	ありったけの勇気	2007	子	ド	27
283	私を守る －DV被害と女性たちの証言－	1993	女	実	30
284	差別意識の解消に向けて 第1巻 人権のまちづくり	2007	同	キカ	29
285	毎日がつらい気持ちわかりますか	2009	イ	ア	18
286	メンタルヘルスと人権 －あなたの心の声を聞いていますか－	2009	パ	ド	30
287	セクシャル・マイノリティ理解のために －子どもたちの学校生活とところを守る－	2009	他	キカ	56
288	だれかのそばで on the other side	2009	障ホ高	キカ	30
289	いのちのコトバ	2007	人	キ	30
290	ネット世界の歩き方	2011	イ	ドカ	18

※ DVD は番号が塗りつぶしてあるものです。VHS は白地のものです。

※ 表示例：〈分野〉人－人権全般、子－子ども、女－女性、障－障害者、高－高齢者、患－患者等、  
同－同和問題、外－外国籍、犯－犯罪被害者等、ホ－ホームレス、他－その他  
〈形態〉ア－アニメーション、ド－ドラマ、カ－解説、キ－記録、レ－歴史、実－実写

※ ビデオ・DVD は、番号が大きいものほど、最近配置したものとなります。

# 8

## 学校・家庭・地域の連携（人権全般）

### 実践する場面

- ①対象者 行政職員、教職員、PTA会員（小・中・高校生をもつ保護者）、各種社会教育関係団体員等
- ②所要時間 90分

### 活動のねらい（ポイント）

- ①相手の立場を理解し、よりよい関係づくりをめざそうとする気持ちを育てる。
- ②学校・家庭・地域がよりよい関係をつくり、連携して人権教育を推進していくには、どのようなことが必要かを考える。

### 準備するもの

ホワイトボード、ホワイトボード用マーカー、A3判用紙、太ペン、マグネットバー、役割カード（資料1）、相談カード（資料2）、記録用紙（任意のもの）

### 進め方（展開例）

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	備考（資料等）
導入 20分	<p>◆学習の確認（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会のねらい</li> <li>・日程</li> <li>・参加体験型学習における約束</li> </ul> <p>◆自己紹介（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで簡単に自己紹介をする。</li> </ul> <p>◆アイスブレイキング（10分）</p> <p>「ひとふでまわし」</p> <p>①紙に描かれた簡単な図形に各人が一筆ずつ描き加え、時計回りに2周回して絵を完成させる。</p> <p>②できあがった絵をホワイトボードに掲示する。</p> <p>③自分たちのグループの絵が何の絵かグループごとに声を合わせて発表する。</p> <p>④感想を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[参加体験型学習の約束]の内容を伝える。 ⇒P.5の4-(5)</li> <li>・事前に4人のグループをつくっておく。</li> <li>・円等の図形に一筆の例を示しながら、自分の直前の人は何の絵を描こうとしていたのか推し量って一筆を加えることを伝える。</li> <li>・声を出さずに行い、何の絵かについては、発表のときまで話さないように伝える。</li> <li>・感想を生かしながらまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A3判用紙</li> <li>・太ペン</li> <li>・ホワイトボード</li> <li>・マグネットバー</li> </ul>
<p>他者の考えを推し量る難しさや、他者の考えを理解し尊重しようとする姿勢の大切さに気づく。</p>			

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	備考（資料等）
展開 60分	<p>◆アクティビティ（50分） 「保護者相談室」（ロールプレイ）</p> <p>①各グループで【相談1～4】の相談者を決める。</p> <p>②各グループの【相談1】の相談者の人が【相談1】の相談カードを受け取る。</p> <p>③他の3人が【相談1】で使う役割カードをそれぞれ取る。</p> <p>④【相談1】の相談者が相談カードに書かれた内容を役割になりきって読み上げる。</p> <p>⑤他の3人が自分の役割カードの立場に立った応答を考える。</p> <p>⑥他の3人が【相談1】の人の相談に順に応じる。</p> <p>以下、【相談2】～【相談4】を同様に行う。</p> <p>◆ふりかえり（10分）</p> <p>①司会、記録を決め、グループごとにふりかえりを行う。</p> <p>②グループで出た意見を全体に発表し、共有する。</p>	<p>・各グループに役割カードを配付する。</p> <p>・役割カードの回答者の設定は実態に応じてかえてもよい。</p> <p>・【相談1】の相談者の人はそれぞれの応答に対して質問したり、意見をいったりしてもよい。</p> <p>・進め方として⑤1分、⑥1人2分を目安にするとよい。</p> <p>・以下同様にそれぞれ相談者や回答者に立場をかえて体験するように伝える。</p> <p>・ファシリテーターは、ホワイトボードにキーワードを板書していく。</p>	<p>・相談カード ⇒ P.57</p> <p>・役割カード ⇒ P.56</p> <p>・記録用紙</p> <p>・ホワイトボード ・ホワイトボード用マーカー</p>
まとめ 10分	<p>◆学習のまとめ（10分）</p> <p>・ファシリテーターの話を聞く。</p>	<p>・ホワイトボードに書きとめたキーワードを生かしながらまとめる。</p> <p>・活動のねらい（ポイント）をおさえる。</p>	
	<p>・同じ物事でも役割や立場によって違った捉え方をする場合があることに気づく。</p> <p>・立場としての発言と本心とのギャップに気づく。</p> <p>・回答者の言葉や態度によって相談者の気持ちに違いが生じることに気づく。</p> <p>・相手の考えを受けとめるとともに自分の考えを伝えていくことが、よりよい関係づくりには大切である。</p>		

<参考資料 「参加体験型人権学習ワークシート集」神奈川県教育委員会（平成15年発行）>

### 学習を深めるために

- ふりかえりて出てきたことを各グループの記録用紙などをもとにまとめ、PTA広報などでPTA会員に紹介していくのもよい。

## 役割カード

PTA かいちょう 会長

PTA ふくかいちょう 副会長

じち 自治 かいちょう 会長

しちょうそん 市町村 しよくいん の職員

こう 校 ちょう 長

## 相談カード

### 【相談 1】

この間、学校の運動会に出かけたところ、本部席の隣に敬老席というのがあって、そこに見るから若い保護者が大勢座っていました。敬老席は運動会を見るには特等席で、座っていいなら自分も座りたいです。高齢者なんてほとんど来ていないのに、一般観覧席を削ってまで敬老席を設ける必要があるんですか。

回答者：自治会長、校長、PTA会長

### 【相談 2】

この間、PTA総会に出かけたら、PTA会長が「本日は大勢のご父兄の皆さまにお越しいただき、ありがとうございます。若くてお美しいお母さま方に囲まれてわたしもうれしい限りです。」とあいさつしていて、気になりました。他の保護者に聞いても「別に気にならない。」というのですが、気にするわたしが変なのでしょうか。

回答者：校長、PTA会長、PTA副会長

### 【相談 3】

先週から小学校の隣の公園にホームレスの人がいて、高学年の子はその人をからかったり、その人のダンボールに石を投げたりしているようです。でも、低学年の子の中には、いじめられていたところをその人に助けてもらったのがきっかけで親しくなり、その人に給食の牛乳やパンを持っていっている子もいるようなのですが、何となく心配で、何かある前にどこかへ行ってほしいので、かわりに話してもらえないでしょうか。

回答者：市町村の職員、校長、PTA会長

### 【相談 4】

わたしの隣の家にはわたしの子どもの同級生が住んでいるのですが、たまにその家から子どもの泣き声や物音が聞こえてきます。その子は学校で他の子をぶったり蹴ったりしているそうです。同じクラスの保護者の方たちにその子のことを話したら、「かわりにならないほうがいいよ。」といわれました。その子の家には幼児や乳児もいて、わたしとしてはとても気になるのですが、どうしたらいいでしょうか。

回答者：市町村の職員、校長、自治会長

# 9

## セクハラ・パワハラ（女性の人権・人権全般）

### 実践する場面

- ①対象者 行政職員、企業関係者等
- ②所要時間 90分

### 活動のねらい（ポイント）

- ①職場におけるセクシュアル・ハラスメント（以下、セクハラと表記）は、どんな行為が該当するのか、併せて職場でのセクハラ防止の取組みについて考える。
- ②職場におけるパワー・ハラスメント（以下、パワハラと表記）は、いかに個人の人格や尊厳を傷つけ、人権を侵害するものであるか認識する。

### 準備するもの

絵柄ピース、ワークシート、付箋、付箋を貼る台紙、マーカー

### 進め方（展開例）

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	備考（資料等）
導入 15分	<p>◆学習の確認（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会のねらい</li> <li>・日程</li> <li>・参加体験型学習における約束</li> </ul> <p>◆アイスブレーキング（10分）</p> <p>「見つけてぴったり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①4分割した絵等を1人1ピースずつ受け取る。</li> <li>②自由に動いて絵を完成させ、グループをつくる。</li> <li>③全体で絵が合っているか確認する。</li> <li>④感想を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[参加体験型学習の約束]の内容を伝える。 ⇒P.5の4-(5)</li> <li>・4ピースで1枚の絵になるように不揃いの形に切っておく。</li> <li>・お互いに声をかけ合えるようにする。</li> <li>・グループができたか確認する。</li> <li>・発表を生かしながらまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵柄ピース</li> </ul>
<p>思いこみがなかったか考える。第三者の声かけの大切さに気づく。</p>			
展開 70分	<p>◆アクティビティ（60分）</p> <p>「みんなの力でセクハラをなくそう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①個人でどのような行為がセクハラになるかを付箋に考えられるだけ書き出す。</li> <li>②セクハラの種類について知る。</li> <li>③グループ内で付箋に書いた内容を順番に発表し、似た内容を分類し命名する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつか例を挙げて、取り組みやすくする。 (例:話すときに肩に手をのせる等)</li> <li>・セクハラの種類について説明する。</li> <li>・厚生労働省の種類にとらわれずに、適宜つくり出すように伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付箋</li> <li>・付箋を貼る台紙</li> <li>・マーカー</li> </ul>

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	備考（資料等）
	<p>分類型（例） からかい型、ジェンダー型、犯罪型、身体接触型、ストーカー型、勘違い型、懲罰型等</p> <p>④各グループからの発表を聞き、他のグループにあって、自分たちのグループにない分類型を加える。</p> <p>⑤ワークシートに命名した分類型を書き、当事者や周りの人ができることを話し合う。</p> <p>◆ふりかえり（10分）</p> <p>⑥グループごとにセクハラ防止のためにできることを話し合う。</p> <p>⑦グループで出た意見を全体に発表し、共有する。</p>	<p>・セクハラにはジェンダー（社会的・文化的な性のありよう）の要素もあるので、内容が出なかった場合はつけたす。</p> <p>・分類型ごとに当事者や周りの人ができることを考えられるように助言する。</p> <p>・セクハラ行為全般を防止するためにはどのようなことが必要か話し合えるように助言する。</p>	<p>・ワークシート ⇒ P.60</p>
	<p>・セクハラに関する受けとめ方は、個人差や男女差があることに気づく。</p> <p>・相手を不快にさせる恐れのある性的な言動を行わないようにする。</p>		
まとめ 5分	<p>◆まとめ（5分）</p> <p>・ファシリテーターの話を聞く。</p>	<p>・活動のねらい（ポイント）をおさえる。</p>	

<参考資料「ぶつかりあう力 ひきあう力 対立と解決」大阪府政策企画部人権室（2008 発行）>  
学習を深めるために

### [セクハラについて]

2007年4月1日に施行された「改正 男女雇用機会均等法」第11条でセクシュアル・ハラスメント対策として、雇用管理上必要な措置を講ずることを事業主に義務づけました。

職場におけるセクシュアル・ハラスメントの分類

- ①「対価型セクシュアル・ハラスメント」… 労働者の意に反する性的な言動に対する労働者の対応（拒否や抵抗等）により、その労働者が解雇、降格、減給等（労働契約の更新拒否、昇進・昇格の対象からの除外、客観的に見て不利益な配置転換等）の不利益をうけること。
- ②「環境型セクシュアル・ハラスメント」… 労働者の意に反する性的な言動により労働者の就業環境が不快なものとなったため、能力の発揮に重大な悪影響が生じる等その労働者が就業する上で看過できない程度の支障が生じること。

### [パワハラについて]

パワハラについては法律的な措置が取られていないが、次のようなことがキーワードになる。厳しい指導との違いについて説明する必要もある。

- ①職権などのパワーを背景にしたもの
  - (a) 職権を持つ上司のパワー
  - (b) 集団が個人に対するパワー
  - (c) 情報や専門スキルを持つ者のパワー
- ②本来の業務の範疇を超えたもの
- ③継続的に行われるもの
- ④人格と尊厳を傷つける言動を行うもの
- ⑤就労者の働く環境を悪化させる、あるいは雇用不安を与えるもの

参照 厚生労働省ホームページ URL <http://www.mhlw.go.jp/>

ちから

# みんなの力でセクハラをなくそう！

## ○ セクハラってどんなこと

**懲罰型**  
ちようほつ がた

・ 仕事の目標が達成され  
なかつたらデートを要  
求される。  
しごと もくひょう たっせい

【できること】

・ 上司に相談する。  
・ 仕事と区別するよう本  
人に伝える。  
じようし そうだん ほん

( ) 型  
がた

【できること】

## ○ セクハラ防止のために職場のみんなできちんと取り組めることを考える。

ぼうし しょくば とく かんが

Blank area for writing answers to the question above.

●**単独アクティビティ集** … プログラムの中のアクティビティと入れかえて実施したり、さらに加えて実施したり、ねらいに合わせて組み込むことができます。



## 車椅子体験

**所要時間** 60分

### 活動のねらい (ポイント)

車椅子体験を通して、障害のある人や介助する人の置かれている状況について理解するとともに、バリアフリー社会の実現に向けて大切なことは何か考える。

### 準備するもの

車椅子、車椅子体験用コース案内図

### 進め方 (展開例)

時間	学習の流れ (活動・内容)	留意事項	備考 (資料等)
15分	①全体で車椅子の特性や介助方法について知る。	・安全に車椅子体験ができるよう、事前に活動場所の安全確認を行う。また、ファシリテーター自身が事前に車椅子の安全で正しい扱い方等を習得しておく。	・車椅子 車椅子を扱う職員人数・参加者人数・車椅子の数をあらかじめ調整し、準備しておく。
10分	②2～3人1組で行い、車椅子に乗る人・介助する人を決め、1人で車椅子を動かしてみたり、介助の人に押ししてもらったりする。(途中で交替する。)	・慣れない動作が多いので、怪我のないよう取り組むことを参加者と確認する。	
20分	③実際に建物内を車椅子で移動したり、動作を試したりする。 ・段差 ・出入口 ・スロープの昇降 ・エレベーター ・自動販売機の商品の購入 等	・室内や建物敷地内での実施とする。	・車椅子体験用コース案内図
15分	④体験して感じたことについて意見を交換する。  ⑤まとめ ・ファシリテーターの話を聞く。	・日常生活でどのようなことに気をつけると車椅子を使用する人に優しい街になるか考えるよう助言する。  ・活動のねらい (ポイント) をおさえる。	
<p>・車椅子体験をとおして、日ごろなにげなく利用したり通行したりしているところに多くの工夫や配慮がなされていることに気づく。 ・移動や施設利用等で、日頃危険性を感じていないような場所が危険だったり、日頃移動できている場所が、移動できなかったりすることに気づく。</p>			

### 学習を深めるために

●できるだけ多くの車椅子が用意できるとよい。車椅子の貸し出しについては、各市町村社会福祉協議会等に問い合わせる。

社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会 URL <http://www.knsyk.jp/>

・車椅子体験が掲載 (紹介) されているホームページ

URL <http://www.sagamiharashishakyo.or.jp/index.html>

社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会



## 「1 歩前へ進め」

所要時間 30 分

### 活動のねらい（ポイント）

自分とは異なる立場に立って物事を考えることにより、社会における不平等や社会的マイノリティによって生じるかもしれない人権侵害について考えを深める。

### 準備するもの

役割カード

### 進め方（展開例）

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	備考（資料等）
2 分	① 1 枚ずつ役割カードを受け取り確認する。	・参加者同士がカードに書かれている役割を他の人に見せないように伝える。	・資料「役割カード（例）」 ⇒ P.64
1 分	② スタートラインに 1 列に並ぶ。	・参加者が役割のイメージをもちやすいように次のように問いかける。ただし、参加者に答えを思い浮かべるだけで答える必要がないことを伝える。	
15 分	問いかけ（例） 「あなたはどのようなところに住んでいますか？」「家族はいますか？」 「昨日は一日どのように過ごしましたか？」など		
	③ 質問に対して、参加者はカードに書かれている人物になったつもりで考え、「そのとおりだ。」と思ったら 1 歩前に進む。（数問繰り返す。）	・うまくイメージができない場合もできる範囲で考えればよいことを伝える。 ・参加者に考える時間を与えるため、間を取って質問する。	
質問（例） <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしは、安心して夜眠ることができる。</li> <li>・わたしは、自分の本名や出身地をいつ、どんな時にも正直に伝えることができる。</li> <li>・わたしは、好きな人と恋愛したり結婚したりすることができる。</li> <li>・わたしは、必要なことを学ぶ機会がある。</li> <li>・わたしは、民主的な方法で私たちの代表者を選ぶことができる。</li> <li>・わたしは、自分がやりたい仕事を選ぶことができる。</li> <li>・わたしは、最低限の衣・食・住が保障された生活を送ることができる。</li> <li>・わたしは、自分が幸せだと思う。</li> </ul>			

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	備考（資料等）
10分	<p>④終了したら、全員でそれぞれが立っている位置を確認する。</p> <p>⑤自分の役割を明かしながら、ふりかえりを行う。</p>		
	<p>ふりかえりの観点（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前に進んだ、または進めなかった理由は何か、その時にどのように感じていたか。</li> <li>・どんどん前進した人は、進めなかった人にどの時点で気づいたか。</li> <li>・自分が演じている人物がどのような人であるかの情報は何かから得たか。</li> <li>・アクティビティで行ったことは、社会のどのような状況を反映しているか。</li> <li>・役割を演じたそれぞれの人が、どのような人権侵害をうけているか。</li> <li>・自分の演じている人物の基本的な人権が踏みにじられていると感じたことはあるか。</li> </ul>		
2分	<p>⑥まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーターの話を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の役割を解く。</li> <li>・活動のねらい（ポイント）をおさえる。</li> <li>・誤解を生じる可能性があるため、役割カードは終了後に必ず回収する。</li> </ul>	
	<p>・すべての人の人権が守られるように、社会全体が義務や責任を果たさなければいけないことについて示唆する。</p>		

<参考資料「人権教育のためのコンパス〔羅針盤〕 学校教育・生涯学習で使える総合マニュアル」  
 企画：ヨーロッパ評議会 翻訳：福田 弘 発行：明石書店（2006年）>

### 学習を深めるために

- 役割カードはサンプルとして提示するものに過ぎません。役割カードは参加者の経験により身近に反映するものであればあるほど、より効果的なものになります。

## 役割カード (例)

<p>あなたは失業中のシングルマザーです。</p>	<p>あなたは大手都市銀行の支店長の娘で大学では経済学を専攻しています。</p>
<p>あなたは不法滞在している外国人です。</p>	<p>あなたは会社を定年退職した 70 歳の独身男性です。</p>
<p>あなたは HIV 陽性の 23 歳の女子大学生です。</p>	<p>あなたは過疎化が進む村で農業をしている青年です。</p>
<p>あなたは 40 歳のホモセクシュアルです。</p>	<p>あなたは事業がうまくいっている貿易会社の社長です。</p>
<p>あなたは 27 歳のホームレスの男性です。</p>	<p>あなたは麻薬取締法で逮捕された人の妹です。</p>
<p>あなたは車椅子でしか移動ができない下肢に障害のある 55 歳の女性です。</p>	<p>あなたは被差別部落出身の公立小学校の教師です。</p>

※誤解を生じる可能性があるため、役割カードは終了後に必ず回収する。

3

# 「みんなでウハウハ」

所要時間 20分

## 活動のねらい (ポイント)

少数派になるとどのような気持ちになるかを体験することにより、少数派の気持ちに気づく。

## 準備するもの

指示カード

## 進め方 (展開例)

時間	学習の流れ (活動・内容)	留意事項	備考 (資料等)
5分	①指示カードを受け取り、内容を確認する。	・指示カードの中には、全く違う動作をするよう指示された少数派カードが1割程度入っているように工夫する。 ・グループ全員の姿がお互いに見えるようにする。 ・カードの内容を他の人にわからないようにして確認するよう伝える。	・指示カード
2分	②指示カードに示された動作をファシリテーターの合図で、声を出さずに行う。	・ファシリテーターの合図があるまで続けるよう指示する。	
5分	③グループ内でふりかえりをする。	・日常生活で起こり得る、似たような状況等を考えるよう助言する。	
・人と違うことをすることは、勇気がいることに気づく。 ・多数派になったときに、少数派にどのような視線を送っていたかについて考える。			
8分	④グループで出た意見を全体に発表し、共有する。 ⑤まとめ ・ファシリテーターの話を聞く。	・活動のねらい (ポイント) をおさえる。	

<参考資料「人権教育ファシリテーター・ハンドブック」角田尚子・ERIC 国際理解教育センター著 (2000年発行) >

## 学習を深めるために

- ・参加者の人数によって全員で行ったり、何グループかに分けたりして、効果的に取り組めるよう配慮する。
- ・指示カードの内容は、参加対象に応じてアレンジする。
- ・多数派から少数派になったり、少数派から多数派になったりするように指示カードを工夫する。

◆ 「みんなでウハウハ」用カード

<ファシリテーターのカードの使い方>

- ①【準備】指示カードで少数派の調整を行う。
- ②【実施】指示カードの「ウハウハ」の部分を上から順に大きな声で言う。
- ③【実施】参加者の動作を確認して次の「ンゴンゴ」を言う。

指示カード①	
ウハウハ	その場でしゃがみこむ
ンゴンゴ	その場でぴよんぴよん飛び跳ねる
クスクス	象のまねをして歩く
シラシラ	自分の耳をふさぐ
トント	自分の左肩をたたく
ムズムズ	その場でしゃがみこむ

指示カード②	
ウハウハ	その場でしゃがみこむ
ンゴンゴ	両手を上に伸ばす
クスクス	直立して動かない
シラシラ	自分の耳をふさぐ
トント	自分の左肩をたたく
ムズムズ	その場でしゃがみこむ

指示カード③	
ウハウハ	その場でしゃがみこむ
ンゴンゴ	両手を上に伸ばす
クスクス	直立して動かない
シラシラ	笑顔でスキップする
トント	自分の左肩をたたく
ムズムズ	その場でしゃがみこむ

指示カード④	
ウハウハ	その場でしゃがみこむ
ンゴンゴ	両手を上に伸ばす
クスクス	直立して動かない
シラシラ	自分の耳をふさぐ
トント	自分の左肩をたたく
ムズムズ	その場でしゃがみこむ

太枠の線に沿って切り取って使用してください。

<指示カードの少数派の順番>

- 1回目「ウハウハ」…少数派はなし（みんな同じ動作になっている。）
  - 2回目「ンゴongo」…少数派は指示カード①（その場でぴよんぴよん飛び跳ねる。）
  - 3回目「クスクス」…少数派は指示カード①（象のまねをして歩く。）
  - 4回目「シラシラ」…少数派は指示カード③（笑顔でスキップをする。）
  - 5回目「トントン」…少数派は指示カード⑥（その場で激しく足踏みをする。）
  - 6回目「ムズムズ」…少数派は指示カード⑦（象のまねをして歩く。）
- ※指示カード②④⑧は一度も少数派にならない多数派指示カードになっています。

指示カード⑤	
ウハウハ	その場でしゃがみこむ
ンゴongo	両手を上に伸ばす
クスクス	直立して動かない
シラシラ	自分の耳をふさぐ
トントン	自分の左肩をたたく
ムズムズ	その場でしゃがみこむ

指示カード⑥	
ウハウハ	その場でしゃがみこむ
ンゴongo	両手を上に伸ばす
クスクス	直立して動かない
シラシラ	自分の耳をふさぐ
トントン	その場で激しく足踏みをする
ムズムズ	その場でしゃがみこむ

指示カード⑦	
ウハウハ	その場でしゃがみこむ
ンゴongo	両手を上に伸ばす
クスクス	直立して動かない
シラシラ	自分の耳をふさぐ
トントン	自分の左肩をたたく
ムズムズ	象のまねをして歩く

指示カード⑧	
ウハウハ	その場でしゃがみこむ
ンゴongo	両手を上に伸ばす
クスクス	直立して動かない
シラシラ	自分の耳をふさぐ
トントン	自分の左肩をたたく
ムズムズ	その場でしゃがみこむ

## 資料

# かながわ人権施策推進指針（概要版より抜粋）

人権がすべての人に保障される地域社会づくりをめざして（平成 15 年 6 月策定）

## 指針策定の基本的な考え方

人権は、人間の尊厳に基づいて、すべての人が生まれながらにもっている権利であり、個人としての生存と自由を確保し、より幸福な人生を送るために欠くことのできない権利です。わが国においては、憲法で基本的人権として、侵すことのできない永久の権利として保障し、国民の不断の努力によって保持しなければならないとしています。

この指針では、これまでの人権施策の取組みを生かし、行政と民間が協働して「人権がすべての人に保障される地域社会づくり」を着実に進めるため、県の人権施策推進にあたっての基本姿勢を示すとともに、人権教育及び人権啓発と分野別の人権施策を推進するにあたっての方向性を示しています。

### ■ 指針の目標

人権がすべての人に保障される地域社会づくりをめざします。

### ■ 基本理念

- (1) 誰もが人権を侵されることなく、個人として尊重される社会づくりをめざします。
- (2) 誰もが機会の平等を保障され、能力が発揮できる社会づくりをめざします。
- (3) 誰もが個性を尊重され、人と人とのつながりを重視した、共に生き、支え合う社会づくりをめざします。

## 人権教育の推進

県民一人ひとりが、学校教育や社会教育を通じ、人権尊重の理念についての正しい理解を深め、これを体得し、人権が真に尊重される「共に生き、支え合う地域社会」の実現をめざした人権教育を総合的に推進します。

### 1 自己実現と社会参加をめざす教育

自分の人権とともに他人の人権を尊重し、その権利の行使に伴う責任を自覚して、自分らしく生き、主体的に社会参加できる社会の実現をめざす教育を推進します。

### 2 人権問題の解決をめざす教育

人権尊重の精神を基盤とし、人権問題についての正しい理解と認識を深め、その解決に主体的に取り組む事ができるような人権教育を推進します。

### 3 人権感覚の育成をめざす教育

人権の意義や価値を認識し、人権の尊重が、意志・態度に現れ、行動につながるような人権感覚を育成する教育を推進します。

### 4 生涯学習の視点に立った教育

幼児期からの発達段階を踏まえ、学校教育と社会教育との連携を図りつつ、人権教育を推進します。

## ◇学校教育

それぞれの発達段階に応じ、すべての教育活動を通じて人権尊重の意識を高め、主体的に人権問題に取り組むことができる力を育むとともに、幼児・児童・生徒の人権に十分に配慮し、一人ひとりを大切にする教育を推進します。

## ◇社会教育

生涯学習の視点に立って、社会教育関係団体等との連携を図りつつ、県民一人ひとりの主体性のもとに、人権が真に尊重される社会の実現をめざして人権教育を推進します。

## 人権啓発の推進

あらゆる機会、あらゆる場を通じて、様々な人権問題に対し、自分自身の問題として認識し、人権尊重の理念についての理解を十分深め、日常生活の中で態度や行動として根づくことをめざし、より効果的な啓発活動を推進します。

1. 多様な啓発活動の展開
2. 人権NGO等との協働
3. 県民、企業等の取組みの促進

### ■ 県民の方々へ

県民一人ひとりが、人権の視点から社会の動きをキャッチし、知識から行動へという積極的姿勢に立って人権問題に取り組むことが重要です。

人権への配慮が自らの態度や行動に現れるような人権感覚を身につけるためには、次の点に留意する必要があります。

- ア 日常的な人権問題への関心と理解
- イ 偏見を持たず、差別をしない、差別を許さない態度と行動
- ウ 自分の人権とともに他人の人権を敏感に感じとる心の涵養
- エ 多様な個性を受け入れ、共存する意識の育成
- オ 人権問題を自分自身の問題として考え、その解決に向けた行動
- カ 県等が啓発事業として開催する講演会等への積極的な参加

### ■ 企業等の方々へ

企業等の社会的責任の一つとして、商品開発、生産、販売などすべての場面において、人権尊重の視点に立った企業活動が大切です。そのためには、次の点に留意する必要があります。

- ア 事業所内における人権尊重の気風の育成
- イ 人権啓発を推進するためのしくみづくり
- ウ 消費者や利用者の人権に配慮した企業活動
- エ 個人の能力と適性に基づく公正な採用と公平な処遇
- オ 県等が啓発事業として開催する講演会等への積極的な参加

## 子ども

子ども一人ひとりが人間として尊重され、人権が守られるなかで成長していく環境づくりを推進します。

### 主な取り組みの方向

- ア 児童虐待の未然防止、早期発見、再発防止等の推進
- イ いじめや不登校の対策の推進
- ウ 「児童の権利に関する条約」の趣旨に基づいた子どもの人権擁護の推進
- エ 青少年の健全な育成の推進

## 女性

男女の人権が等しく尊重され、女性も男性も自らの選択によってあらゆる場において活躍でき、また、生き方を楽しめる、お互いが支え合い、利益も責任も分かち合える男女共同参画社会の実現をめざします。

### 主な取り組みの方向

- ア 女性に対するあらゆる暴力の根絶
- イ 就業の分野における男女共同参画の促進
- ウ 男女共同参画社会づくりに向けた意識啓発
- エ 情報の受け手側となる県民のメディア・リテラシー※の向上  
(※情報を主体的に読み解き、評価する力)

## 障害者

障害のある人もない人もお互いに支え合い、共に生活し、活動できる社会の実現をめざします。

### 主な取り組みの方向

- ア 障害者の社会参加を支えるしくみの整備
- イ 社会参加の場づくりの促進
- ウ 障害者の権利擁護のしくみの充実
- エ 福祉のまちづくりの推進
- オ 障害のある子ども一人ひとりの教育ニーズに応じた教育の推進

## 高齢者

高齢者が安心して、いきいきと暮らせる社会の実現をめざします。

### 主な取り組みの方向

- ア 高齢者の自立した生活を支えるための取り組みの促進
- イ 高齢者の権利擁護のしくみの充実
- ウ 福祉のまちづくりの推進

## 患者等

病気についての知識の不足や誤解から生じるエイズ患者・HIV感染者やハンセン病患者・元患者、難病患者などへの偏見をなくすため、病気についての正しい知識の普及や患者等の立場に立って考える等の啓発を推進します。

### 主な取り組みの方向

- ア 病気についての正しい知識の普及啓発の推進
- イ 病気に則した支援の充実
- ウ 患者本位の医療の推進

## 同和問題

同和地区関係者への偏見や差別意識は、まだ払拭された状況にあるとはいえません。

権利侵害や不利益を被ることのないよう、同和問題の解決に向けて、一人ひとりが正しい理解と認識を深め、差別を許さない心を育むため、人と人とのつながりを重視する視点に立った啓発活動等を推進します。

### 主な取り組みの方向

- ア 偏見や差別意識をなくす教育の推進
- イ 人権尊重意識の啓発
- ウ 同和地区関係者の自己実現・社会参加の支援
- エ 地域住民の交流の促進

## 外国籍県民

一人ひとりが多様な文化や民族の違いを理解し、真の国際感覚を身につけることにより多文化共生社会の実現をめざします。

### 主な取り組みの方向

- ア 多文化共生・多文化理解の促進
- イ 外国人にかかわる法律・制度の改善に向けた取り組み
- ウ 多言語による情報の提供や相談機能の充実
- エ 外国籍県民の生活支援策の促進
- オ 差別や偏見を克服する教育の推進、外国籍児童・生徒に対する教育の充実

## ホームレス

近年の経済、雇用環境の悪化等を背景に、駅周辺、公園、河川敷等でホームレスが全国的に増加しています。そうした状況の中で地域社会とのあつれきが生じるなど社会問題となっています。また、ホームレスへの偏見や差別意識から暴行事件等が発生しています。

ホームレスの自立支援やホームレスの人権擁護のための啓発活動を推進します。

### 主な取り組みの方向

- ア ホームレスの人権擁護のための啓発活動の推進
- イ ホームレスの自立支援に関する施策の推進

## 犯罪被害者等

犯罪に遭遇した被害者やその家族は、それまでの平穏な生活を破壊され、生命、身体、財産に対する侵害のほか精神面で日常生活に支障をきたしている例が少なくありません。

犯罪被害者等の精神的立ち直りを支援するとともに、犯罪被害者等への理解を深める啓発活動を推進します。

### 主な取り組みの方向

- ア 犯罪被害者等への相談、支援の充実
- イ 犯罪被害者等への理解を深めるための啓発活動の推進

(注) ここに挙げた9つの分野の他にも「特定の職業に従事する人」「刑を終えて出所した人」「性的マイノリティの人」等への偏見や差別意識、あるいは身体的特徴を理由とする偏見や差別意識があります。また、偏見や差別意識等が複合して深刻な人権問題をきたしているケースや、インターネットによる他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現など、人権にかかわる問題も発生しています。

これらの問題の解決に向けても関係機関、人権 NGO 等と協働して取り組みます。

本冊子掲載のワークシートをそのままコピーして使用する場合は、プログラム事例を十分に参照してください。また、使用の際には、出典（本冊子の題名、編集・発行者、発行年）を明記してください。

## 人権学習のための参加体験型学習プログラム集

平成 24 年 3 月

企画・作成 神奈川県人権教育担当国会議(社会教育部会)  
編集・発行 神奈川県教育委員会教育局企画調整部行政課人権教育グループ  
横浜市中区日本大通 33 〒231-8509  
電話 (045)210-1111[代表]



人権学習のための参加体験型学習プログラム集 平成 24 年 3 月



神奈川県

教育委員会教育局企画調整部行政課人権教育グループ

横浜市中区日本大通 33 〒231-8509 電話(045)210-1111 (代表)